

# 徳島県立博物館年報

第12号 (平成14年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum  
No. 12 (for the fiscal year of 2002)



# 目 次

## I 展覧事業

1. 常設展……………2
2. 企画展……………2
3. 特別陳列……………8
4. 移動展……………10
5. その他の展示……………11
6. 常設展の更新に向けての取り組み……………11
7. 展示関係出版物……………11

## II 調査研究事業

1. 課題調査……………12
2. 分野別（個別）調査研究……………14
3. 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金による研究……………16
4. 他機関との共同研究……………16
5. 研究用試料の提供……………16
6. 研究成果の公表……………17
7. 研究会・学会等の開催……………20

## III 資料収集保存事業

1. 採集資料……………21
2. 購入資料……………21
3. 寄贈資料……………22
4. 寄託資料……………23
5. 資料の貸し出し……………23
6. 資料の交換……………24
7. 館蔵資料数……………24
8. 資料収集委員会……………24
9. 文献資料の収集……………25
10. 資料の燻蒸……………25

## IV 普及教育事業

1. 普及行事……………26
2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等……………28
3. 博物館実習生の受け入れ……………29
4. 学校教育との連携……………29
5. 博物館の広報活動……………32
6. 博物館友の会……………33
7. 普及教育関係出版物……………34

## V 管理運営

1. 組織・職員……………35
2. 予算……………36
3. 博物館協議会……………36
4. 各種委員・非常勤講師等の受諾……………36
5. コンピュータシステム……………37
6. 博物館ネットワーク……………38
7. 視察等博物館関係来訪者……………40

## VI 観覧者統計……………41

## VII 施設の概要

1. 沿革……………44
2. 施設の概要……………44
3. 博物館各室面積……………46

## VIII 例規……………48

# I 展 覧 事 業

博物館での展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、いろいろなテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。しかし、開館10周年が過ぎ、常設展の更新（リニューアル）をどう図っていくかが大きな課題となっている。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3～4回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がり資料の展示など様々なテーマをおりませ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

## 1. 常設展

### (1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

#### ●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

#### ●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料 など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

#### ●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

### (2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成14年度は次の展示を行った。

#### ●戦前期徳島の映画館チラシ

3月26日（火）～5月26日（日）（前年度からの継続）  
平成12年度に購入した大正～昭和戦前期の映画館チラシの一部を展示した。

#### ●おまけになった動物たち

3月26日（火）～9月8日（日）（前年度からの継続）  
お菓子のおまけのうち、動物をモチーフにした精巧なおまけ192種と、それらに関連した剥製、標本、歴史資料などをあわせて展示した。

#### ●前山古墳群の発掘調査

5月28日（火）～9月8日（日）  
名西郡石井町石井にある前山古墳群の発掘調査の成果を展示した。

#### ●知らせる道具・広告

9月10日（火）～12月1日（日）  
館蔵品を中心に、さまざまなタイプの看板、引札、ポスターを展示した。

#### ●石垣島の民具

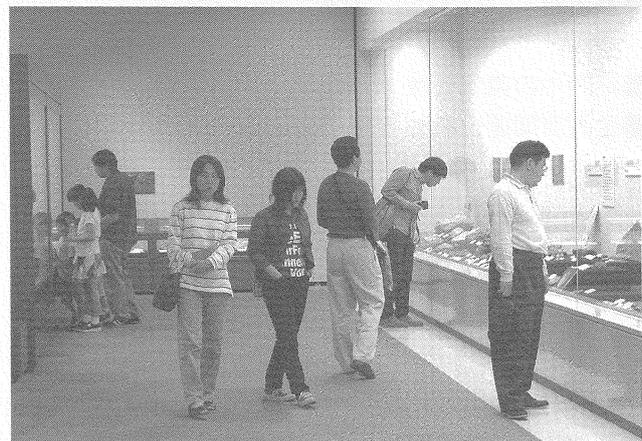
12月3日（火）～3月30日（日）  
沖縄県石垣島で作られ、使われた民具を展示した。

## 2. 企画展

平成14年度は、次の3回の企画展を行った。



ポスター



展示室風景

(1) 第1回企画展「貝化石が語る海の記憶」

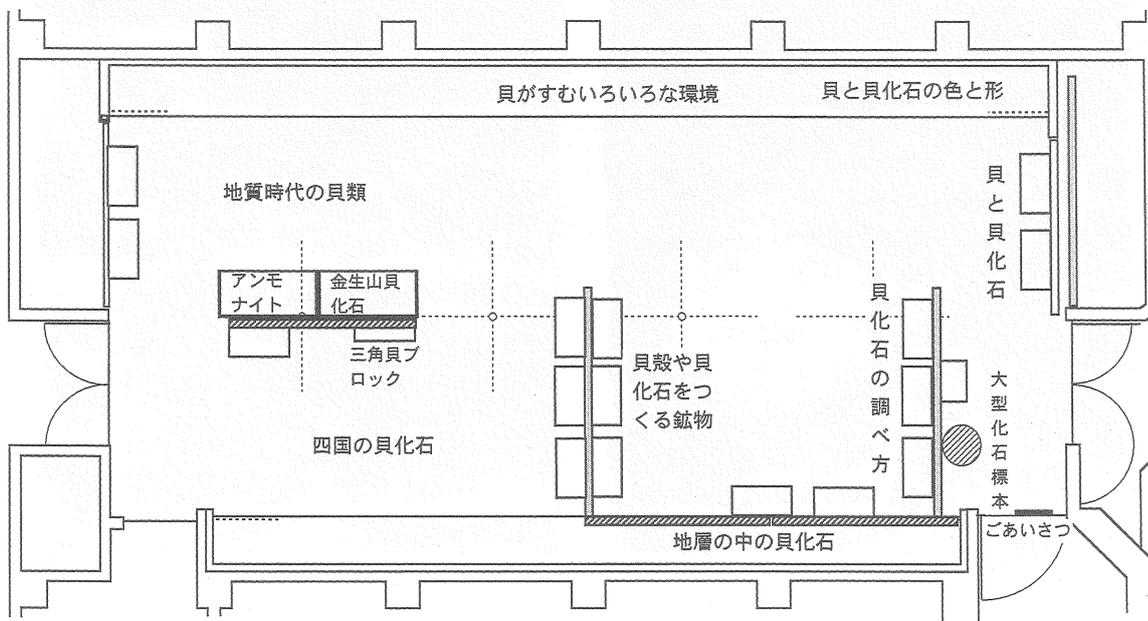
おもに古生物学的な観点から貝類や貝化石を取り上げた。貝類の生息場所と化石としての残りやすさの関係、各地質時代の貝化石、四国周辺地域の貝化石など、このグループの概要を、さまざまな角度から紹介した。

●期間 平成14年4月12日(金)～5月12日(日)

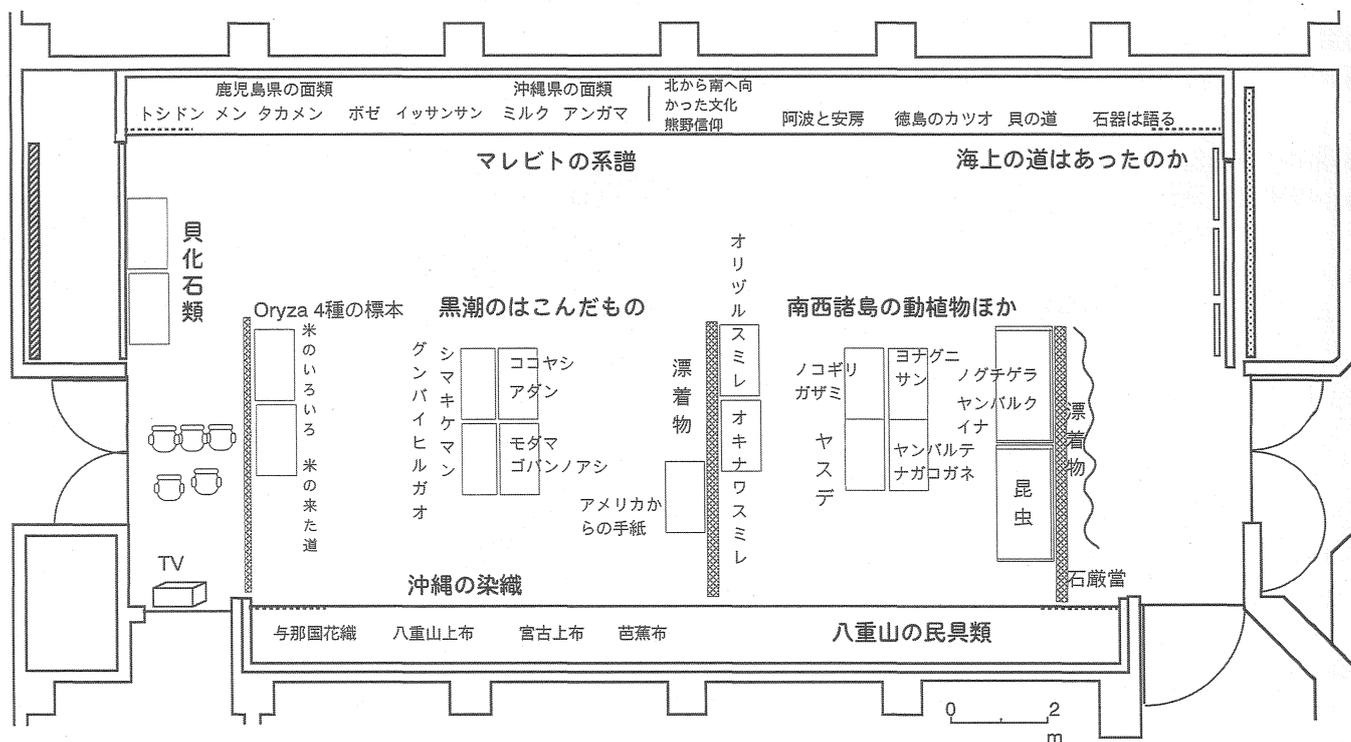
●会場 博物館企画展示室

●展示内容

- ①貝と貝化石
- ②貝の模様と形
- ③貝がすむいろいろな環境
- ④地質時代の貝化石

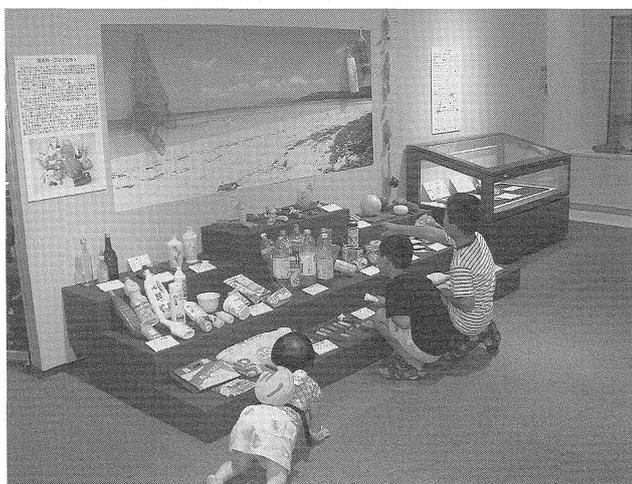






- ・イネ作りの証拠・プラントオパール (温帯ヤポニカ、熱帯ヤポニカ、インディカ)
- ③黒潮のはこんだもの
  - 流れのままに
    - ・漂着物はかたる・ゴミか宝物か
    - ・アメリカからの手紙・2年半の旅
    - ・種子がはこばれる・黒潮の道を物語る証拠
  - 南へ北へ
    - ・海流ではこばれた生き物たち・植物の分布拡大戦略、昆虫の旅
- ④まれびとの系譜
  - ・仮面と祈り・南西諸島の面と祭り (弥勒、アンガマ、鹿児島島の各島の面)

- ⑤琉球弧
  - 南西諸島の特徴的な動植物
    - ・ヤンバルの生き物たち・ヤンバルテナゴコガネ、ノグチゲラ、ヤンバルクイナ
    - ・ヤンバルの植物・すみれ
    - ・昆虫・コノハチヨウ、フタオチヨウ、八重山の昆虫
    - ・甲殻類・ノコギリガザミ、テナガエビ
  - 人・くらし
    - ・石の魔よけ・石敢當 (徳島小松島市、三加茂町)、門中墓 (写真)
    - ・沖縄の染織・八重山上布、宮古上布、芭蕉布、紅型など



展示室風景

- ・農具と生活用具・植物を利用した民具、ヒラなど
  - 展示資料点数 実物資料 488点
  - 観覧料 一般200円/大学生100円/小・中・高校生は無料
  - 期間中の観覧者数 3,194人
  - 企画展関連行事
- 記念トーク（黒潮トーク+展示解説）
- ①日時：7月28日(日) 13:30~14:30  
 演題：隆起を続ける珊瑚礁の島—喜界島  
 講師：中尾 賢一  
 会場：講座室及び展示会場  
 入場者：17人
  - ②日時：8月4日(日) 13:30~14:30  
 演題：植物の目から見た黒潮の道  
 講師：小川 誠  
 会場：講座室及び展示会場  
 入場者：6人
  - ③日時：8月11日(日) 13:30~14:30  
 演題：コメの渡来ルート  
 講師：茨木 靖  
 会場：講座室及び展示会場  
 入場者：25人
  - ④日時：8月18日(日) 13:30~14:30  
 演題：イモの祭り—根栽農耕文化と黒潮の道—  
 講師：庄武 憲子

- 会場：講座室及び展示会場  
 入場者：10人
- ⑤日時：8月24日(土) 13:30~14:30  
 演題：本土と南西諸島のヤスデ、貝、かに  
 講師：田辺 力  
 会場：講座室及び展示会場  
 入場者：9人
  - ⑥日時：8月25日(日) 13:30~14:30  
 演題：南島の熊野信仰  
 講師：長谷川 賢二  
 会場：講座室及び展示会場  
 入場者：16人
  - ⑦日時：9月1日(日) 13:30~14:30  
 演題：昆虫と黒潮の道  
 講師：大原賢二  
 会場：講座室及び展示会場  
 入場者：18人

### (3) 第3回企画展「古代のわざ」

古代の人びとが技術の粋を集めて作りだしたさまざまなものに隠された「わざ」に焦点をあて、文化財の科学的調査などからわかった優れた製作技術などを紹介した。また、復元された正倉院宝物の一部を展示し、それぞれの宝物に秘められた技術の高さについても紹介した。

徳島県立博物館企画展

# 古代のわざ

2002年  
 10月11日(金) - 11月10日(日)

徳島県立博物館企画展示室 開館時間：午前9時30分～午後5時  
 休館日：10月15日(火)・21日(月)・28日(月)、11月5日(火)

●開館行事  
 ●前扉の復元製作実演  
 10月20日(日) 午後1時30分～3時30分(野外劇場)  
 小泉武親氏・小泉裕母氏(金工作家)

●記念講演会「正倉院宝物にみるいにしへのわざ」  
 11月3日(日) 午後1時30分～3時(イベントホール)  
 木村俊光氏(京都府立芸術大学教授、前徳島県立正倉院事務所長)

●展示解説  
 10月13日(日)・11月4日(月)の2回 午後2時～3時  
 企画展会場を担当学芸員が解説します

●観覧料  
 一般：200円(160円)  
 高校生・大学生：100円(80円)  
 小・中学生：50円(40円)  
 (1) 1日1回20名以上の団体  
 土・日・祝日は、小中学生の観覧は無料

徳島県立博物館  
 徳島市(丸町)中寺山 徳島県文化の森総合公園内  
 TEL 089-668-9630 FAX 089-668-7197  
 http://www.museum.comet.go.jp/

徳島県立博物館企画展

# 古代のわざ

2002年 10月11日(金) - 11月10日(日)  
 午前9時30分～午後5時  
 休館日：10/15(火)・21(月)・28(月)、11/5(火)

工人たちはいにしへの時代から、その作品に持てる技術のすべてを注ぎ込み、多くの優れたものを残してきました。

本企画展では、工人たちの技術の粋を集めて作りだしたさまざまなものに隠された古代の「わざ」に焦点をあて、文化財の科学的調査などからわかった優れた製作技術などを紹介します。また、優れた逸品が多く残っていることで有名な正倉院宝物のうち、調査をもとに新しく復元された宝物の一部を展示し、それぞれの宝物に秘められた技術の高さについても紹介します。

●展示構成とおもな展示資料

- 1 出土遺物にみる古代のわざ
  - ・土器(山形県杉野山出土、奈良国立博物館蔵)
  - ・銅器土製・石製鏡(複製)
  - ・(奈良県磯吉・石巻郡出土、田原町教育委員会蔵)
  - ・大岩山1号銅鐸(復元品)(静岡県立歴史民俗資料館蔵)
  - ・金銅製冠帯(徳川親王崩山崎出土、新潟市教育委員会蔵)
  - ・金銅製馬具(徳島県ぬのぼろ出土、鳥居蔵)
- 2 よみがえる正倉院宝物
  - ・銀平鍔(復元模造品)
  - ・鍔(復元模造品)
  - ・筒状銅製鏡(復元模造品)
  - ・筒状銅製鏡(複製)

火燗型土器 (徳島県中野、奈良国立博物館蔵)

砂地彩織八角丸(復元模造品)

漆箱(復元模造品)

徳島県立博物館  
 7770-8070 徳島市(丸町)中寺山 徳島県文化の森総合公園内  
 TEL 089-668-9630 FAX 089-668-7197  
 http://www.museum.comet.go.jp/

●期間 平成14年10月11日(金)～11月10日(日)

●会場 博物館企画展示室

●展示内容及び主な展示資料

① 出土遺物にみる古代のわざ

縄文・弥生・古墳時代など、時代ごとに代表的な遺物にスポットをあて、科学的調査などや復元製作によってわかった「わざ」を紹介。

●縄文土器にみる芸術とわざ

火焰型土器 (名古屋博物館蔵)

土偶 (奈良国立博物館蔵)

●2000年前のハイテクー銅鐸ー

大岩山1号銅鐸復元品(野洲町立歴史民俗資料館蔵)

伝徳島県内出土銅鐸 (当館蔵)

●古墳副葬品にみる工人たちのわざ

新沢千塚第126号墳出土金製垂飾付耳飾〔複製〕(橿原市教育委員会蔵)

王墓山古墳出土金銅製冠帽(善通寺市教育委員会蔵)

② よみがえる正倉院宝物

宮内庁などによって復元された正倉院宝物とその製作技術を紹介。

正倉院宝物復元品(銀平脱合子、螺鈿箱、粉地彩絵八角几ほか)(宮内庁正倉院事務所蔵)

●展示資料点数 合計 85点

●観覧料 一般200円/高校・大学生100円/小・中学生50円

●期間中の観覧者数 3,724人

●企画展関連行事



展示室風景

①企画展「古代のわざ」記念講演会

日時：11月3日(日)

講師：木村法光氏(京都市立芸術大学教授、前宮内庁正倉院事務所保存課長)

演題：正倉院宝物に見るいにしへのわざ

会場：文化の森イベントホール

参加者：67人

②企画展「古代のわざ」銅鐸の復元製作実演

日時：10月20日(日)

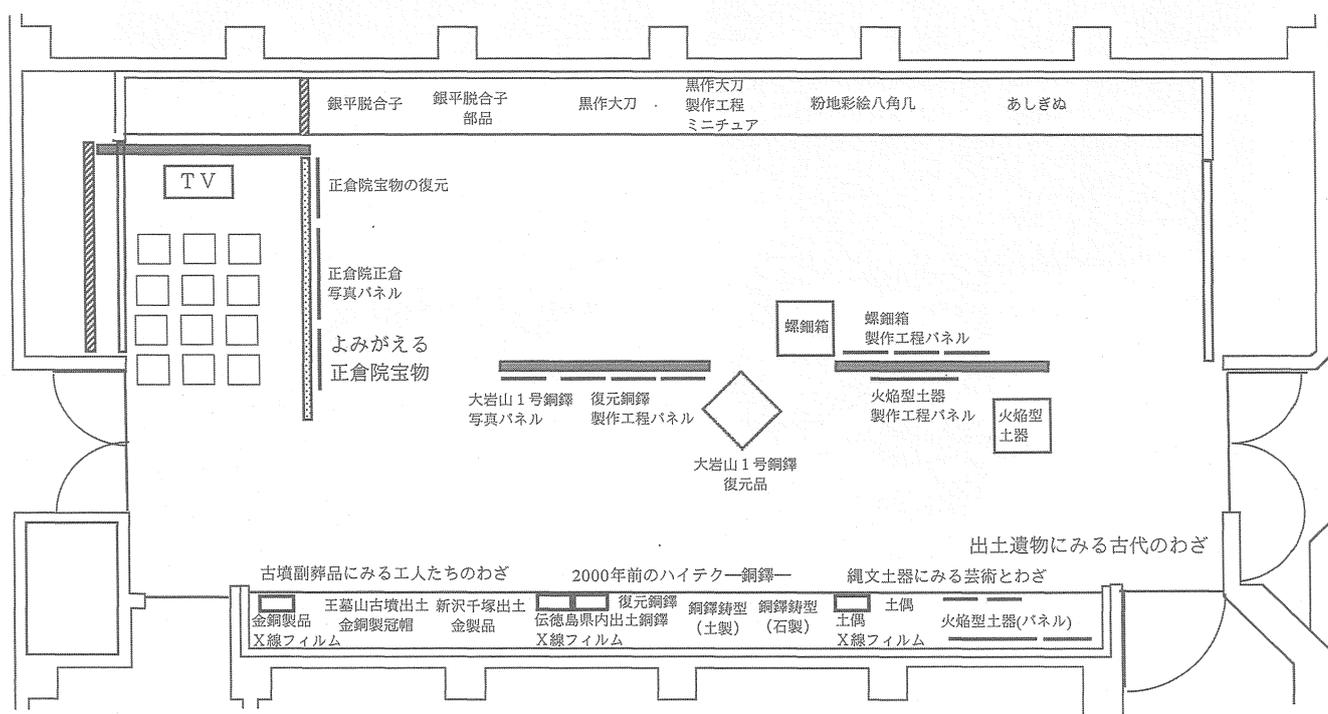
会場：文化の森野外劇場

実演者：小泉武寛氏・小泉裕司氏(金属工芸家)

参加者：136人

③企画展「古代のわざ」展示解説

第1回：10月13日(日) 参加者 29人



第2回：11月4日(月) 参加者 23人

### 3. 特別陳列

#### (1) 人権教育のための国連10年協賛「丹波マンガ ン鉱山の記録—在日コリアンの労働史—」

丹波地方には、約300のマンガ  
ン鉱山があり、1896  
年頃から1983年頃までマンガ  
ンの採掘が行われた。これら  
の鉱山で働いていた人々の多  
くは、朝鮮半島からやって来  
た人たちであり、なかには、  
戦時中に労働力不足を補うた  
めに強制連行されてきた人も  
いた。また、被差別部落の人  
々も職を求めて鉱山にやって  
来た。丹波マンガ  
ン鉱山の労働を支えた人々  
には「じん肺」という病気が  
降りかかり、鉱山労働を離れ  
た後にも苦しめられること  
になった。また、「じん肺」罹  
患により、偏見と差別が厳し  
くなった側面もあった。

この特別陳列は、在日コ  
リアンの元鉱山労働者が鉱  
山に生きた人たちの心を刻  
み、また歴史の教訓に学ぶ  
ために独力で設立した人権博  
物館である、丹波マンガ  
ン記念館の収蔵資料をもとに  
、鉱山に生きた人々のおか  
れた状況を示し、日本の歴史  
のなかに刻まれた人権侵害  
の実態を示すことを目的と  
して開催した。

なお、当館における会期終  
了後は、徳島県博物館協  
議会を介した県内博物館施  
設の連携事業として、海南

町立博物館（7月11日～22日）、石の博物館（7月31日～8月15日）、土成町郷土歴史館（8月20日～9月4日）、松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館（9月8日～9月25日）を巡回し、同内容の展示を行った。

●主催 徳島県立博物館・徳島県博物館協議会

●後援 人権資料・展示全国ネットワーク

●期間 平成14年6月25日(火)～7月7日(日)

●会場 博物館企画展示室

●展示構成と主な展示資料

①ワシらは山で生きてきた

写真パネル（丹波マンガ  
ン記念館蔵）

②鉱山での生活

マンガ  
ン採掘道具（丹波マンガ  
ン記念館蔵）

チゲ（背負子）ほか梱包・運搬具（丹波マンガ  
ン記念館蔵）

写真パネル（丹波マンガ  
ン記念館蔵）

③マンガ  
ンってなに？

マンガ  
ン鉱物（丹波マンガ  
ン記念館蔵）

徳島県産マンガ  
ン鉱物（当館蔵）

ルール、乾電池ほかマンガ  
ン使用製品（丹波マンガ  
ン記念館蔵）

④丹波マンガ  
ン記念館

パネル（丹波マンガ  
ン記念館蔵）

●観覧料 無料

人権教育のための国連10年協賛

巡回展

## 丹波マンガ ン鉱山の記録

— 在日コリアンの労働史 —

鉱山労働の実状から人権を考える

徳島県立博物館  
2002年6/25(火)～7/7(日)  
入場無料 月曜休館  
徳島市八万町向香山  
TEL 088-688-3838

海南町立博物館  
2002年7/11(木)～7/27(土)  
入場無料 月曜休館  
徳島県海南町四方原字杉谷  
TEL 0884-73-4080

石の博物館  
2002年7/31(水)～8/15(木)  
入場無料 無休  
徳島県山城町上名  
TEL 0883-84-1489

土成町郷土歴史館  
2002年8/20(火)～9/4(水)  
入場無料 月曜・8/31(土)休館  
徳島県土成町土成字丸山  
TEL 088-695-5038

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館  
2002年9/8(日)～9/25(水)  
入場無料 9/9(月)・17(火)・24(火)休館  
徳島県松茂町高島字四番越  
TEL 088-689-5995

◎展示期間  
日時 2002年7/6(土)  
18:30～15:00  
会場 徳島県立博物館企画展示室  
講師 李慶植氏（丹波マンガ  
ン記念館長）

◎土成町郷土歴史館企画展示室  
日時 2002年8/22(木)  
14:00～15:30  
会場 徳島県土成町歴史民俗資料館  
講師 李慶植氏（丹波マンガ  
ン記念館長）

◎石の博物館  
日時 2002年8/25(日)  
9:00～15:00  
会場 松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃  
芝居資料館  
講師 李慶植氏（丹波マンガ  
ン記念館長）

主催 徳島県立博物館 海南町立博物館  
石の博物館 土成町郷土歴史館  
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居  
資料館 徳島県博物館協議会  
後援 三人権資料・展示全国ネットワーク

人権教育のための国連10年協賛

巡回展

## 丹波マンガ ン鉱山の記録

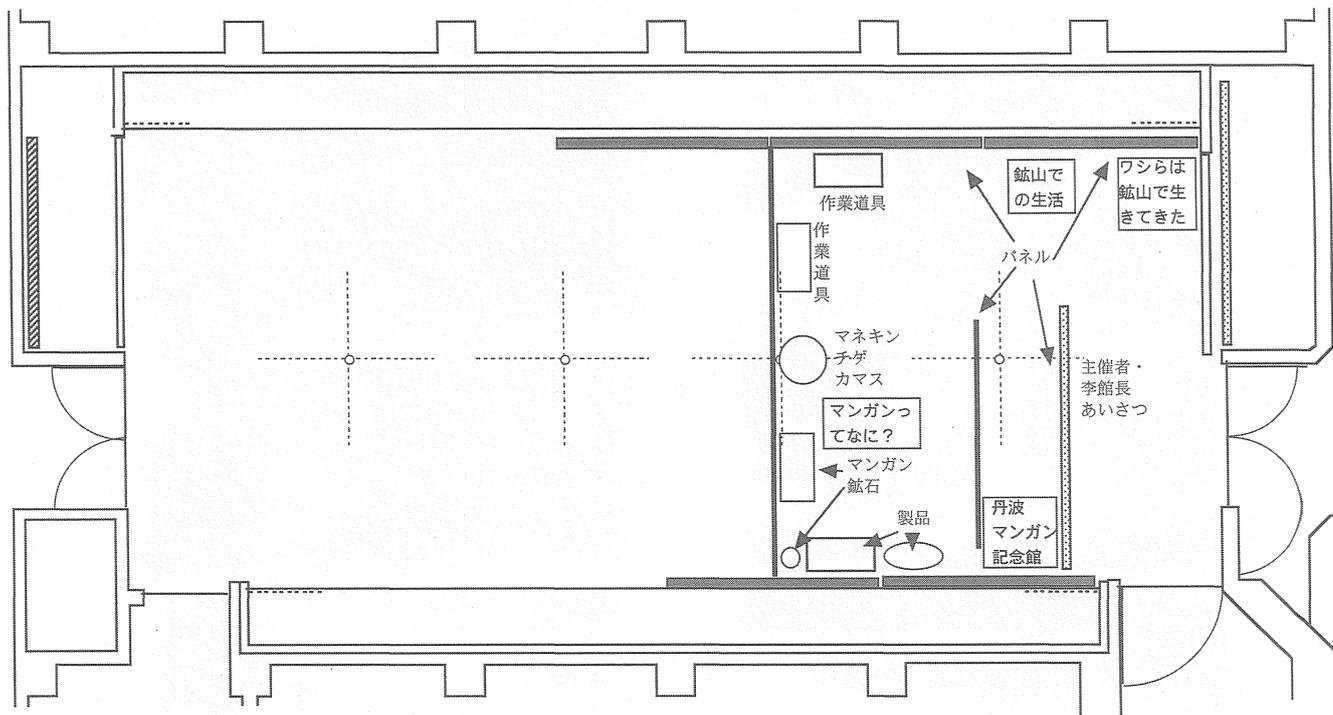
— 在日コリアンの労働史 —

丹波地方には、約300のマンガ  
ン鉱山があり、1896年頃  
から1983年頃までマンガ  
ンの採掘が行われた。これら  
の鉱山で働いていた人々の多  
くは、朝鮮半島からやって来  
た人たちであり、なかには、  
戦時中に労働力不足を補うた  
めに強制連行されてきた人も  
いました。また、被差別部落  
の人々も職を求めて鉱山に  
やってきました。鉱山の労働  
を支えてきた人たちは「じん  
肺」という病気が降りかか  
り、それが差別をいっそうか  
きたてていきました。

この展示では、在日コ  
リアンの元鉱山労働者が  
鉱山に生きた人たちの心  
を刻み、また歴史の教訓  
に学ぶために独力で設  
立した人権博物館であ  
る、丹波マンガ  
ン記念館（京都府京  
北町）の収蔵資料をも  
とに、鉱山に生きた人  
々のおかれた状況や、  
日本の歴史のなかに  
刻まれた人権侵害の  
実態を示していきます。  
差別と人権について考  
える機会となれば幸  
い입니다。

(左) 鉱山の労働風景  
(下) 木炭運搬の残る露柱  
（写真提供：丹波マンガ  
ン記念館）

主催 徳島県立博物館（TEL 088-688-3838）  
海南町立博物館（TEL 0884-73-4080）  
石の博物館（TEL 0883-84-1489）  
土成町郷土歴史館（TEL 088-695-5038）  
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館（TEL 088-689-5995）  
徳島県博物館協議会  
後援 人権資料・展示全国ネットワーク

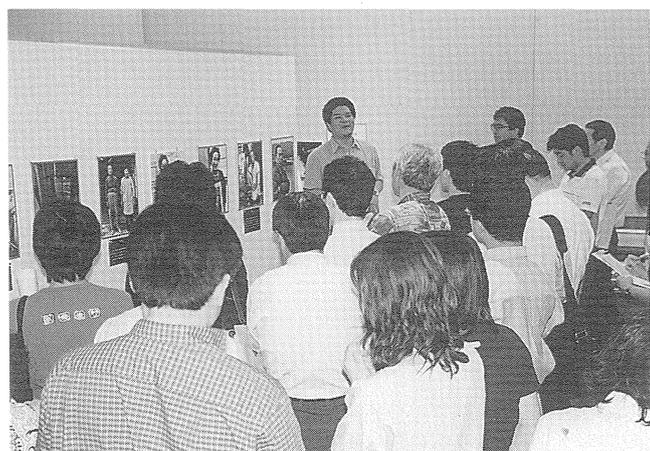


●観覧者数 1,195人

●展示解説

7月6日(土) 参加者48人

李龍植氏(丹波マンガン記念館長)を招いて解説していただいた。



李龍植氏による展示解説

## (2) 楠コレクションの美術・歴史資料

楠コレクションは、徳島県鳴門市出身の故楠育治氏が所蔵されていた美術・歴史・民俗の諸資料約3,000点である。平成14年3月に、御夫人の弘美氏より当館に寄贈された。

それらには、光格上皇の御幸の行列を描いた「光格上皇修学院御幸儀仗図巻」3巻、祖谷への道筋の眺めを描いた「祖谷山絵巻」2巻、全国の名勝を集めた「全国名勝絵巻」10巻の徳島県指定文化財が含まれている。

楠コレクションはなお整理中であるが、その一部を特別陳列として広く公開した。

●期間 平成15年1月21日(火)～3月2日(日)

●会場 博物館企画展示室

●展示構成と主な展示資料

### ①徳島ゆかりの美術資料

光格上皇修学院御幸儀仗図巻 渡辺広輝筆  
 祖谷山絵巻 渡辺広輝筆  
 鳴門十一景図 貫名天蓼筆  
 旧徳島城図 須木一胤筆  
 墨跡 泰雲書  
 延生軒詩 高泉禅師書

### ②書画の優品

勢至菩薩画賛 木庵禅師  
 茶園詩 仙崖書  
 大和し美し 棟方志功作  
 山と水 棟方志功画  
 茄子 金島桂華画

### ③歴史・民俗資料

後伏見上皇院宣  
 塵滴問答 阿波国文庫本  
 東海道分間絵図 菱川師宣下絵  
 角目頭 人形忠作  
 信楽焼大壺

●展示件数 49件

●観覧料 無料

●観覧者数 4,655人

徳島県立博物館 特別陳列

# 楠コレクションの 美術・歴史資料

会期:平成15年1月21日(火)～3月2日(日)  
月曜休館 午前9時30分～午後5時  
会場:1階企画展示室 **入場無料**

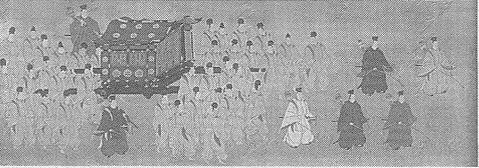
楠コレクションは、徳島県鳴門市出身の故橋本治氏が所蔵されていた。美術・歴史・民俗などの分野にわたる約3,000点の資料です。平成14年3月に、御夫人である弘美氏により当館に寄贈されました。

それらには、光格上皇の御筆の行列を描いた「光格上皇修学院御幸儀図巻」、祖谷の景勝を写生した「祖谷山絵巻」、全皇の名勝をまとめた「全皇名勝絵巻」の3件の県指定文化財がふくまれています。

楠コレクションは今も整理中ですが、その一部を特別陳列として公開しますので、ぜひご覧下さい。



聖雲 (阿波大文字南山) 墨跡



渡辺広輝筆 光格上皇修学院御幸儀図巻 (徳島県指定文化財)

徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向山(徳島県立文化会館隣)  
TEL 088-668-9636 FAX 088-668-7197 http://www.museum.pref.tokushima.jp/



渡辺広輝 祖谷山絵巻 (徳島県指定文化財)

宇佐貫魚 全皇名勝絵巻 (徳島県指定文化財)

逸仙 布袋図 蘭元寶

真木一風 旧徳島城図

鈴木龍門 巨富子大図

仙彦 茶園詩 高廣輝詩 延生軒詩

藤原寛治 二大字

# 紙敷

チ ラ シ

(3) 2002年度文化の森人権問題啓発展

文化の森5館と徳島県教育委員会(生涯学習課・人権教育課)との共催で、年2回の人権問題啓発展(同和問題啓発展標語ポスター入選作品展と識字学級生の作品展)を行った。

- 主催 文化の森5館・徳島県教育委員会
- 期間

(1) 2002年度文化の森同和問題啓発展標語ポスター・資料展  
平成14年7月27日(土)～8月4日(日)  
入場者数 1,066人

(2) 2002年度文化の森人権問題啓発展  
平成14年12月3日(火)～8日(日)  
入場者数 669人

- 会場 2回とも近代美術館ギャラリー・21世紀館多目的活動室・ミニシアター(ビデオ上映)
- 入場者数計 1,735人

4. 移動展

徳島県博物館協議会の役員会や総会などにおいて

海南町立博物館第8回企画展  
徳島県立博物館移動展

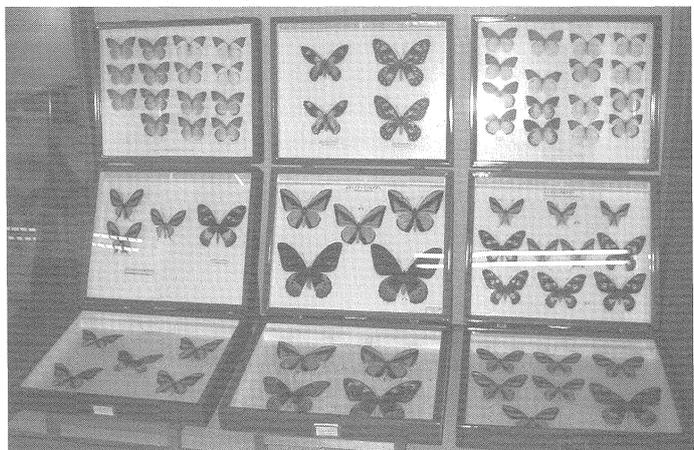
# 昆虫の世界

2002年  
10月26日(土)～11月24日(日)  
(休館日:毎月曜日,11月5日(11月4日は閉館))  
会場:海南町立博物館 企画展示室  
開館時間 9:00～17:00

**企画展は無料**

有田忠弘氏による県南のチョウの写真も展示

入口ポスター



展示室

も、県立や市町村立の博物館が連携しての巡回展や移動展などを開催し、博物館活動を盛り上げていきたいという要望もあがっている。14年度には前述のように、丹波マンガ記念館の資料による巡回展を行ったが、秋には初めての試みとなる「移動展」を海南町立博物館で開催した。

資料の貸借という方式でなく、展示構成も当館側である程度検討したものを運搬してのこのような展示会はこれまでは行ってこなかったが、今後は開催館の分野に関係なく、このような企画が増えていくことも考えられる。

#### ■2002年度移動展「昆虫の世界」

●主催 海南町立博物館・海南町教育委員会・徳島県立博物館

●期間

平成14年10月26日(土)～11月24日(日)

●会場 海南町立博物館 企画展示室

●入場者数 1,137人

## 5. その他の展示

平成14年4月1日(月)より6月30日(日)まで、平成13年度の購入資料である「伝徳島県内出土銅鐸」を、2階総合展示室内ラプラタ記念ホールの一角において速報展示した。

## 6. 常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめぐりに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から館内での検討を行ってきた(年報7号参照)。そして、開館15周年目に当たる17年度にリニューアル・オープンする計画で、事業規模を縮小した基本案見直しを行い、予算積算などを行ったが、厳しい財政状況等もあって、今回も事業化は認められなかった。

今後、できるだけ早い時期での常設展更新が実現するよう、その方途を探っている。

また、最近開館した博物館や展示のリニューアルを行った館に対する調査も継続してきており、14年度には次の調査を行った。

北九州市立自然史・歴史博物館：新規開館の展示状況の調査

## 7. 展示関係出版物

### ■企画展図録・解説書

●第1回企画展図録「貝化石が語る海の記憶」

2002年4月12日発行、A4判39ページ(カラー)、700部+友の会増刷分300部

●第2回企画展図録

「海道をゆく一黒潮のはこんだもの一」

2002年7月19日発行、A4判74ページ(カラー)、700部+友の会増刷分300部

●第3回企画展図録「古代のわざ」

2002年10月11日発行、A4判32ページ(カラー)、700部+友の会増刷分100部

## Ⅱ 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じては館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む15名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

### 1. 課題調査

平成14年度は、次の3つの課題調査を行った。

#### (1) 牟岐大島・出羽島の自然と暮らし

大島及び隣接する津島は海部郡牟岐町から約4 kmの洋上にある無人島である。これらの島は、離島であることなどの関係からいずれも人工林をまったく見ないため県南の植生を知る上で貴重な存在となっている。また、出羽島は県内でも数少ない人が住む離島であり、早くから漁業を中心として開けた土地である。島内は宅地・耕地が多いものの、南面の大池には世界的に珍しいシラタマモが自生しているなど県内でも特筆に値する地域と言える。自然環境としては、牟岐町の多くは暖温帯植物区に入るものの、津島・大島・出羽島などではアコウをはじめとした亜熱帯植物の混成が目立ち、林床には様々な腐生植物が見られるなど特異な植物が分布していることも知られている。これらのことから、三島を中心とした牟岐町の周辺の島々を調査することで、県南部を特徴づける自然及び人文的データが多数得られると期待される。しかし、津島・牟岐大島・出羽島を含むその周辺の島々の自然や人文に関する調査は古いものしかなく、最近の現状はまったく不明と言える。そこで、徳島県立博物館として、この津島・牟岐大島・出羽島及びその周辺の島々につ

いて、2年間にわたりさまざまな分野での総合調査を行うこととした。

#### ●調査メンバー

博物館学芸員：大原賢二(昆虫)、小川 誠(植物)・茨木 靖(植物：調査担当者)、中尾賢一(地学)、高島芳弘(考古)、長谷川賢二(歴史)、庄武憲子(民俗)、磯本宏紀(民俗)

館外調査員：木内和美(植物研究者・牟岐町文化財保護審議会委員)、佐治まゆみ(植物研究者)、吉田一夫(市場町職員)

#### ●調査の概要および結果

14年度は、本調査の1年目として、次のような分担で調査地域全体の概要を把握することを目標に調査を行った。14年度の調査では島の生物相の概要が明らかになり、特に植物では、ウミヒルモ、ネコノシタなど貴重な植物が見いだされるなどの成果があった。

大原賢二(分担：昆虫類の幼虫・成虫調査)

小川 誠・茨木 靖(分担：植物相調査)

中尾賢一(分担：地質と貝類化石について)

高島芳弘(分担：考古学的調査)

長谷川賢二(分担：歴史的位置づけについて)

庄武憲子・磯本宏紀(分担：民俗風習について)

#### (2) 恐竜産出地点周辺の地質と化石

勝浦町立川溪谷の小さな沢の中で、白亜紀の代表的な草食恐竜であるイグアノドン類の歯の化石が発見されたのは1994年4月のことだった。発見者は当時高知大学学生だった菊地直樹氏で、西南日本外帯で2例目、四国では初の恐竜化石であった。その年の8月に合同の現地調査が行われ、結果は徳島県立博物館研究報告第5号に報告された。恐竜化石を含んでいた地層は淡水～汽水環境で堆積した立川層の最上部付近であることが明らかになった。

それ以降も、化石資料や情報の蓄積が進んでおり、汽水～淡水性の化石を比較的豊富に産出することがわかってきた。しかしこのフィールドで研究を行っている研究者は、各地に分散している。それぞれが独自に研究を進めていることもあって、現状では全体像が見えにくくなってきている。

本調査では、立川溪谷の恐竜発見地点付近の地層から産出する各種の化石を系統的に採集し、立川層形成

当時の堆積環境に関する新たな情報の追加を計った。立川層の調査を行っている主要な研究者に館外調査員として加わっていただき、総合的な調査を行った。

#### ●調査メンバー

博物館学芸員：中尾賢一（地学：調査主导者）、両角芳郎（地学）

館外調査員：菊池直樹（御所浦白亜紀資料館）、石田啓祐（徳島大学総合科学部）、香西 武（鳴門教育大学）、橋本寿夫（藍住東中学校）、平田正礼（高知市）

#### ●調査日程

10月11日：調査の打ち合わせ

10月13日～14日：勝浦町アゲノ谷周辺での調査と化石採集

#### ●調査の概要および結果

調査前半は、アゲノ谷とその対岸の沢で、徹底的な大型化石の探索を行った。その結果、足印化石の可能性のある堆積構造や四足動物の骨片と考えられる化石を発見し、その多くを採集した。これらの化石の多くは、やや石灰質で潮汐作用による堆積構造が発達した泥質岩に入っていた。また、淡水性二枚貝化石の産出層準をおさえ、多数の化石を採集した。その他、ナンヨウスギ化石など、これまで報告のない化石の産出も確認した。

調査の後半では、立川層最上部～羽ノ浦層最下部にかけての層準で、綿密な露頭観察と化石採集を行い、詳細な柱状図と地質図を作成した。この調査から、従来の立川層と羽ノ浦層の境界の定義は見直しが必要なのことがわかった。

### (3) 徳島県の半翅類調査

徳島県の昆虫相解明のために、外部の研究者にも参加してもらいながら、平成12年度からの2年計画でスタートさせたが、セミ科のエゾゼミ類の調査がまだまだ不十分であると考え、14年度も延長して調査を継続することとした。また水生のグループ(異翅目の一部)についても、より詳細な調査が必要であり、秋から冬季の越冬中の調査を重点的に行うこととした。

3年目となる14年度は、水生半翅類、特にアメンボ類を調査するために初夏から調査を行い、夏期のエゾゼミ類の調査と共にため池の調査を重点的に行った。結果的には水生半翅類についてはかなりの成果が得られ、これまでの文献上の記録も含めて徳島県及び四国における水生半翅類の概要を研究報告にまとめた。エゾゼミ類に関しては、発生期の天候が極めて不順で、生息地付近では雨や曇りの日が多く、全国的にも発生数がきわめて少ない年となったようで、成果は上から

なかった。

#### ●調査メンバー

博物館学芸員：大原賢二（動物）

館外調査者：林 正美（埼玉大学教育学部）

#### ●14年度調査の成果

##### ①徳島県のエゾゼミ

7月27～30日に夏季のエゾゼミ類を中心とした調査を行った。28日に神山町から木頭村までのスーパー林道周辺で調査。29日、三好郡山城町野ガ池山、30日に三好郡池田町雲辺寺山、脇町大滝山での調査を行った。天候が悪く数頭が鳴いているにすぎず、スギが高すぎて採集はできなかった。

三好郡山城町野ガ池山の調査後、途中の河川敷で水生半翅類の調査も行い、徳島県初記録となるオモゴミズギワカメムシを採集した。

##### ②徳島県の水生半翅類

5月16～19日、11月20～23日、15年2月7～9日の3回、林氏と共に調査を行った。名東郡佐那河内村の八反池、徳島市内の渋野町、麻植郡川島町と阿波郡市場町にまたがる善入寺島、美馬郡脇町および阿南市などの淡水湿地、ため池、海岸を中心に調査を行った。

・前年度も触れたが、善入寺島は吉野川の中流域にある流域最大の中洲で、中に2つの池があり、一つは市場町、一方は川島町に位置する。ここでは全国的にも貴重なイトアメンボがかなり見られ、今年度の調査では、オキナワイトアメンボ、ヒメイトアメンボも同時に採集され、3種が同所的に棲息していることがわかった。このような場所はこれまでの調査では他に知られていない。

また、川島町側の池では、晩秋にきわめて多数のオオミズムシが見られ、エサキアメンボも発見されている。

・阿南市の各地に見られるため池では、それほど環境のいいところは発見できなかったが、ミズムシ類が見られ、調査が進めばこれまでよりもかなり多くの種が発見される可能性は高い。

・脇町周辺のため池はこの1年のうちに、すでにいくつか埋め立てられており、このような水環境の保全についても、その対策を急がねばならないと感じた。

### (4) 星河内美田銅鐸の復元に関する調査

銅鐸をはじめとする弥生時代青銅器の分布と変遷に関する研究は当館の調査研究テーマの柱の一つとして掲げており、資料収集方針としても銅鐸およびその製作技法に関する資料の収集に努力してきた。

銅鐸の製作技法の研究についても、X線透過撮影なども応用し、さまざまな視点から調査を続けている。

平成12年度には課題調査として「復元銅鐸の製作に関する基礎調査」を行った。

徳島市上八万町より出土した星河内美田銅鐸は、1932年の出土後まもなく細片に破壊され、4ヶ所に分散されて保管されることとなったため、ごく初期の調査によって7点の銅鐸があったことは知られるが、その後詳細な調査はされておらず、形式などについても不明な点があり、一部の研究者をのぞいて一般にはもとの形を想像することすらできない状態となっている。

本課題調査では、県内出土銅鐸の調査研究の一環として、全国に分散して保管されている星河内美田銅鐸の破片を一堂に集め、詳細な調査を行うことによって、その形式や原状を確定し、県内に特徴的に見られる星河内美田タイプ銅鐸の原状を一般県民にも容易に理解できるようにするため復元品を製作するための基礎的なデータを集めようとしたものである。

#### ●調査メンバー

博物館職員：高島芳弘（考古）、魚島純一（保存科学・考古）

館外協力者：難波洋三（京都国立博物館）、小泉武寛（金属工芸家）

#### ●調査の概要

##### ①銅鐸破片の写真撮影および接合関係等の確認

東北大学及び同志社大学歴史資料館の協力を得て、それぞれに保管されている星河内美田銅鐸の破片を借用し、写真・X線撮影を行うとともに、接合関係等を確認し、できる限り正確に原状を推定するためのデータを収集する。

##### ②X線透過撮影および蛍光X線分析による調査

##### ③調査結果の検討と原状復元図の作成

難波氏、小泉氏とともに実物の観察を行い、類例などとも比較することによって原状の検討を行い、あわせて鑄造欠陥等の検討を行い、復元鑄造のためのデータとする。文様構成、各文様の寸法などの確認、接合関係から全体の概寸が判明した場合、原状復元のためのイメージ図を作成し、復元鑄造の資料とする。

#### ●調査の成果

##### ①破片の接合関係の確認

東北大学、同志社大学歴史資料館、そして当館に分散して保管されている破片を一堂に集め、写真撮影を行った後に、それぞれの破片の接合関係を確認した。

これまでに明確になっているものの他に、いくつかの新しい接合関係が確認でき、全体像の解明に役立った。

##### ②X線透過撮影および蛍光X線分析による調査

ある程度接合関係が明確になった段階で、X線透過

撮影及び蛍光X線分析を行った。その結果、特徴的な鑄造欠陥を持つ個体が確認されるなど、接合関係の確認を迫認する結果を得ることができた。データの詳しい分析は今後さらに時間をかけて行っていきたい。

##### ③全体像の推定

類例との比較やそれぞれの個体における文様構成の特徴、破片の位置などから、各個体の識別、総個体数の類推等の作業を行った。

その結果、7個体あるいは8個体の銅鐸の存在が確認でき、これまで言われている7個体がまとまって出土したという事実が確認できた。ただし8個体の存在をうかがわせる要素もあり、この場合はこれまでの記述等が誤りであった可能性も残る。

## 2. 分野別（個別）調査研究

### 大原賢二（動物・昆虫）

#### ①日本産ハナアブ科の分類学的研究

#### ②徳島県のヒラズゲンセイの分布調査

#### ③アサギマダラの移動調査

アサギマダラの移動について、14年度も継続してマーキング等の調査を行った。マーキング調査への協力者も増えつつあるが、14年度の移動記録はきわめて少なく、特に徳島県からの移動が1頭も記録されなかった。

#### ④マレーゼトラップによる県内の昆虫相の調査

名古屋市の名城大学農学部昆虫学教室の山岸健三氏と共同で、14年度の1年間、文化の森総合公園内に2カ所、佐那河内村大川原にある「県立生き物ふれあいの里」の構内に1カ所、上勝町旭ヶ丸の標高800m付近に1カ所の計4張りのマレーゼトラップを設置し、2～4週間間隔で回収を行って、その付近の昆虫相の調査を行った。

すでに約5万頭の標本が作成、科までの同定後、当館に納められており、今後の調査研究用資料として保管されている。今後もいくつかの地点を選んで設置し継続して調査を行う予定である。

### 佐藤陽一（動物・脊椎動物）

#### ①県内の淡水魚類相調査

県下の淡水魚類相調査の一環として、県下各地で調査を行った。

#### ②勝浦川に生息する魚類の生息環境に関する研究

調査データ（1999～2001年）に基づき、魚類の生息を予測するためのモデル化手法の比較を行った。徳島大学工学部建設工学科との共同研究。

#### ③徳島市国府町以西用水に生息する魚類の生息環境に

関する研究。

徳島大学工学部大学院エコシステム研究科との共同研究。

④メダカとカダヤシの種間関係に関する研究。

徳島大学工学部大学院エコシステム研究科との共同研究。

⑤松茂町中喜来地区に生息する魚類の生息環境に関する研究。

徳島大学工学部建設工学科との共同研究。

田辺 力 (動物・無脊椎動物)

①県産無脊椎動物相の調査

鳴門市にて海岸無脊椎動物相の調査を行った。

②ヤスデ類の進化生物学および分類学的研究

ババヤスデ属の分類学的再検討を報告した。また、本属の交尾器形態の進化要因についての研究を進めた。

③ヤスデ類の毒成分の分析

ヤスデ類2種について毒成分について報告した(大村 尚、桑原保正氏と共同)。

小川 誠 (植物)

①三野町の植物相調査

平成14年度阿波学会の調査の一環として、三野町の植物相調査を行った(木下 覚、木村晴夫氏らと共同)。

②博物館の情報提供におけるインターネットの利用に関する技術的研究

前年度に引き続き、博物館のホームページの全文検索および他博物館との共通検索システムを構築した。

③ヨモギ属の分布調査

日本産ヨモギ属の分化と分布の現状を探るため、長崎県での分布調査を行った。

④県内の絶滅危惧種の調査

徳島県版レッドデータブックを作成し、さらに普及版の編纂に携わった。

茨木 靖 (植物)

①県産植物相の調査

麻植郡美郷村奥野々山を中心に、植物相の調査を行った。

②ススキ属の比較研究

国内外の博物館、研究機関より世界各地のススキ属の標本を借用し、その異同、分布などに関する調査を行った。

両角芳郎 (地学)

①日本の上部白亜系の化石層序に関する研究

阿讃山地の和泉層群から産出するノストセラス科アンモナイトの分類学的検討を行った。また、かつ

て研究して記載・図示した個人標本で、その後に公的博物館で保管されている標本について調べ、研究報告に投稿した。

②勝浦川流域下部白亜系産化石に関する研究

羽ノ浦層から産出した頭足類の分類学的検討を行った。

中尾賢一 (地学)

①沖積平野の堆積学的・古生物学的研究

高知市中央部と縁辺部の沖積層から産出した貝化石を分析した。一部の資料については年代測定を行い、古環境の変遷を調べた(三本健二氏と共同)。

②浅海性更新統の堆積環境と貝化石相の調査

長崎県と愛知県で堆積構造の観察と貝化石の採集を行った。

③三野町の地質調査

平成14年度阿波学会の調査の一環として、三野町の中央構造線系断層の露頭調査を行った(橋本寿夫氏、森江孝志氏らと共同)。

高島芳弘 (考古)

①縄文時代の石鏃の形態の変異に関する調査

鮎川遺跡を中心とする那賀川流域で採集した石鏃の図化を行い、基礎資料の蓄積を行った。

②若杉山遺跡の範囲の検討

若杉山遺跡の近くの由岐水銀鉞山丹波坑口付近で採集した石杵の性格について検討し、合わせて若杉山遺跡の広がりについての検討を行った。

魚島純一 (保存科学・考古)

①県内出土銅鐸の調査

県内出土銅鐸、特に昨年度購入した伝徳島県内出土銅鐸に見られる鑄掛けについてのX線透過撮影や蛍光X線分析などを行った。また、今年度課題調査として取り上げた星河内美田銅鐸(徳島市上八万町出土)についても、出土地の確認、出土状況の聞き取り調査等を行い、課題調査の基礎的な資料とした。

②臭化メチル燻蒸に替わる燻蒸法の研究

これまでに試作した窒素を使った簡易な燻蒸装置(バルーン)を用いた博物館資料の燻蒸以外にも博物館資料の燻蒸に有効な方法を探るための検討を行った。植物標本においては低温処理による殺虫を試みることにした。

③外部依頼による調査、燻蒸処理等

香川県埋蔵文化財調査センター、高知県埋蔵文化財センター、高松市教育委員会、などの依頼を受け、出土文化財の蛍光X線分析による材質調査を行った。

県内教育委員会、博物館施設などの文化財保管施

設からの依頼を受け、古文書、民具などの燻蒸処理を実施した。

#### ④新設博物館施設の環境調査

徳島県立文学書道館の新設に伴う館内環境の調査を実施し、空調機の運転や設定、温湿度測定等の必要な処置についての助言を行った。同館はその後、東京文化財研究所による環境調査を実施し、国宝・重要文化財の展示が可能であるとの評価を得ている。

#### 山川浩實（歴史）

##### ①関ヶ原合戦に関する現地調査

1600年（慶長5）に行われた美濃国関ヶ原合戦における蜂須賀至鎮隊の陣地について、「関原御陣立図」（国立公文書館蔵）、「関ヶ原合戦図」（名古屋市秀吉清正記念館蔵）の二つの絵図からその陣地の場所を特定し、現地調査で確認した。

##### ②大坂冬の陣に関する現地調査

1614年（慶長19）に行われた大坂冬の陣における蜂須賀至鎮隊の陣地（東本願寺別院）や、その周辺の本町橋付近を調査し、企画展の展示資料とするため、写真撮影を行った。

#### 長谷川賢二（歴史）

##### ①熊野三山奉行成立過程の研究

従来から行っている修験道史研究の一部をなす。修験道本山派中枢組織において重要な位置を占めたとされる熊野三山奉行の成立について、新たに園城寺関係系譜に基づく情報を整理して分析を進めた。

##### ②中世期書写大般若経の調査研究

香川県大内町水主神社外陣大般若経に見える阿波国海部郡薩摩郷の現地比定に関する研究史を整理し、研究報告13号に報告した。また宍喰町大日寺所蔵大般若経を調査したほか、神山町勧善寺所蔵大般若経の奥書を再検討して奥書データベースを作成した。

#### 庄武憲子（民俗）

##### ①神山町の暮らしについての調査

神山町史編纂にあたって、専門委員として神山町での暮らしぶりについて調査を行った。

##### ②三野町の盆棚習俗についての調査

阿波学会において三野町に伝わる盆棚の習俗についての事例収集分析を行った。

##### ③盆棚についての調査

徳島県内に伝わる盆棚の習俗についての事例収集と分析を行った。

#### 磯本宏紀（民俗）

##### ①潜水漁及び漁村構造に関する調査

県南部の漁村を中心に展開される潜水漁を中心として、その空間利用、労働慣行、生業の複合性につ

いて調査を継続中である。漁村間で生じる地域差を探り、その根底にある移住や出稼ぎ通じた労働慣行や漁具の受容についての検討を目指す。

##### ②阿讃峠道と山村の暮らしに関する調査

三野町を中心にして阿讃峠道に関連する伝説、交通、交易関係について昭和初期から現在に至るまでの変遷について調査した。

##### ③唐竿の地域差に関する調査

四国民具研究会での共同調査の一部である。上板町立歴史民俗資料館の収蔵資料及び当館収蔵資料と中心にして唐竿の形態、材質等の特質について調査した。なお、県内唐竿調査については次年度も継続する予定である。

#### 大橋俊雄（美術工芸）

##### ①徳島藩にかかわる美術作品の調査研究

阿波の絵師、工芸職人の作品と史料について所在調査を行った。

##### ②藤重の研究

徳島藩に抱えられた京都藤重家について、文献資料を調べた。

##### ③飯塚桃葉の研究

飯塚桃葉の作品の比較検討を行った。

### 3. 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金による研究

#### ●基盤研究(B)一般(1)：二次草地の保全に向けた施策立案のための学際的・保全生態学的研究（平成14～16年度）

研究代表者：鎌田磨人（徳島大学工学部助教授）

当館の研究協力者：長谷川賢二、庄武憲子、磯本宏紀

### 4. 他機関との共同研究

#### ●(社)土木学会四国支部受託研究の共同研究：「正木ダムに係わる河川環境総合調査」（平成10～15年）

研究代表者：岡部健士（徳島大学工学部教授）

当館の共同研究員：佐藤陽一

### 5. 研究用試料の提供

#### ●動物

徳島県産ツキノワグマ剥製体毛 若干数

名古屋大学大学院環境学研究所

徳島県産メダカ活魚 若干数  
 神奈川県立生命の星・地球博物館  
 徳島県産トウヨシノボリ縞鱗型活魚 若干数  
 兵庫県立尼崎北高等学校

## 6. 研究成果の公表

### (1) 徳島県立博物館研究報告第13号

2003年3月31日発行、B5判796ページ、1,200部  
 (\*は館外研究者)

林 正美\*・大原賢二・岩崎光紀\*：徳島県の水生半翅類。p.1-27.

中尾賢一・三本健二\*：高知市布師田とはりまや町における完新世貝類相の変遷と AMS<sup>14</sup>C 年代。p.29-40.

高島芳弘。徳島県阿南市の由岐水銀鉱山丹波坑口付近で採集した石杵-若杉山遺跡の広がりに関連して- p.41-51.

長谷川賢二：中世阿波の薩摩郷をめぐる史料と考証-昭和前半期における郷土史家浪花勇次郎の周辺を中心に-。p.53-63.

橋本寿夫\*・中尾賢一：四国東端の伊島から得られた白亜紀放散虫。p.65-75.

茨木 靖・木下 覺\*：キダチノネズミガヤの徳島県での記録。p.77-79.

### (2) 博物館ニュース “Culture Club” 欄記事

磯本宏紀：春を知らせる年中行事-徳島県の太々神楽-。No.47, p.2-3.

山川浩實：徳島藩の蒸気船-セントロイス号など購入の顛末-。No.48, p.2-3.

小川 誠：絶滅から植物を救うために。No.49, p.2-3.

田辺 力：生きものへの二つの接し方。No.50, p.2-3.

### (3) 当館刊行物以外への掲載 (\*印：館外研究者)

#### ●査読付学術雑誌掲載論文

〈動物〉

佐藤陽一・岡部健士\*・竹林洋史\* (2002.05) 徳島県勝浦川に生息する魚類の出現/非出現の予測モデル。魚類学雑誌, 49(1) : 41-52.

Kuwahara, Y.\*, H. Omura\*, and T. Tanabe (2002. 7) 2-Nitroethenylbenzenes as natural products in millipede defense secretions. *Naturwissenschaften*, 89 : 308-310.

Tanabe, T. (2002. 12) Revision of the millipede genus *Parafontaria* Verhoeff, 1936 (Diplopoda, Xystodesmidae).

*Journal of Natural History*, 33 : 2139-2183.

Omura, H.\*, Y. Kuwahara\*, and T. Tanabe (2002. 12) 1-Octen-3-ol together with geosmin: The new secretion compounds from a polydesmid millipede *Niponia nodulosa*. *Journal of Chemical Ecology*, 28 : 2595-2606.

〈植物〉

Syamsuardi\*, H. Okada\* and M. Ogawa (2002. 12) A new variety of *Ranunculus japonicus* (Ranunculaceae) and its genetic relationships to the related species of set. *Acris* in Japan. *Acta Phytotax. Geobot.* 53 (2) : 121-132.

#### ●著書

〈動物〉

佐藤陽一 (2002. 11) 魚の困った名前-差別的和名をどうするか。青木淳一・奥谷喬司・松浦啓一編「虫の名、貝の名、魚の名：和名にまつわる話題」, 東海大学出版会 : 172-191.

小池啓一\*・小野展嗣\*・町田龍一郎\*・田辺 力 (2002. 7) 小学館の図鑑・NEO「昆虫」. 小学館, 207pp.

#### ●一般著述 (単行本・図書)

〈動物〉

大原賢二 (2002. 3) 総合博物館の中の自然史。徳島博物館研究会編「地域に生きる博物館」, 教育出版センター : 135-157.

佐藤陽一 (2002. 3) 博物館における生物の差別的和名の使用-アンケート調査から-。徳島博物館研究会編「地域に生きる博物館」, 教育出版センター : 240-261.

佐藤陽一 (2002. 3) 魚類。那賀川町史編さん委員会編「那賀川町史, 上巻」, 那賀川町 : 121-133.

〈地学〉

両角芳郎 (2002. 3) 博物館の学芸組織に関する一考察。徳島博物館研究会編「地域に生きる博物館」, 教育出版センター : 97-107.

中尾賢一 (2002. 3) 資料整理・登録の方法-徳島県立博物館の地学資料の場合-。徳島博物館研究会編「地域に生きる博物館」, 教育出版センター : 225-239.

〈考古〉

魚島純一 (2002. 3) 博物館施設における燻蒸をめぐる課題と展望-特に小規模な博物館施設が抱える問題を中心に-。徳島博物館研究会編「地域に生きる博物館」, 教育出版センター : 193-203.

〈歴史〉

長谷川賢二 (2003. 1) 近世阿波の藍商人 盛家の巡礼資料。巡礼研究会編「巡礼論集 2 六十六部廻国巡礼の諸相」, 岩田書院 : 191-204.

長谷川賢二(2002.3)博物館における展示と部落問題。  
徳島博物館研究会編「地域に生きる博物館」, 教育出版センター:262-282.

#### 〈民俗〉

庄武憲子(2002.3)第三章 年中行事;第五章 民間療法. 那賀川町史編さん委員会編『那賀川町史 下巻』, 徳島県那賀郡那賀川町:754-791, 824-828.

#### ●一般著述(逐次刊行物, その他)

#### 〈動物〉

大原賢二・中峯浩司\*(2002.12)「2001年の移動記録一覽」. 日本鱗翅学会・アサギマダラプロジェクト編「アサギマダラ年鑑, 2001」p.30-34.

大原賢二・中峯浩司\*(2002.12)「日本列島~台湾におけるアサギマダラの移動記録一覽(1980~2000年)日本鱗翅学会・アサギマダラプロジェクト編「アサギマダラ年鑑, 2001」p.35-44.

佐藤陽一(2002.3)魚類.(財)とくしま地域政策研究所編, 徳島県環境現況基礎調査報告書(平成13年度徳島県委託調査).(財)とくしま地域政策研究所:111-120+58-61.

佐藤陽一・高橋弘明・洲澤 譲(2002.3)淡水・汽水産魚類. 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会編「徳島県の絶滅のおそれのある野生生物-動物編-徳島県版レッドデータブック- [普及版]」, 徳島県県民環境部環境局循環型社会推進課自然共生室:36-40.

佐藤陽一(2002.5)フォーラム「河川・湿地における生態系の保全・復元-その目標設定の考え方」コメント:水辺生態系の保全・復元目標は達成できるか?-理想と現実とのほざまで-. 平成14年度土木学会四国支部第8回技術研究発表会講演概要集:25-26.

藤田博行\*・岡部健士\*・佐藤陽一(2002.5)勝浦川正木ダム上下流の魚類相とその生息環境. 平成14年度土木学会四国支部第8回技術研究発表会講演概要集:63-164.

上月康則\*・佐藤陽一・村上仁士\*・花住陽一\*・倉田建悟\*・長地 洋\*(2002.5)メダカに対するカダヤシの攻撃行動について. 平成14年度土木学会四国支部第8回技術研究発表会講演概要集:492-493

佐藤陽一(2002.8)魚博士の吉野川魚図鑑連載第6回:トビハゼ. 四国三郎吉野川, 12:9.

佐藤陽一(2002.9)農村生態系と魚類.(社)農村環境整備センター編「平成13年度農村環境技術研修【生態系保全(中国・四国ブロック)コース】テキスト」, (社)農村環境整備センター:1-24.

佐藤陽一・岡部健士\*・竹林洋史\*・藤田博行\*(2002.10)河川性魚類の生息と物理環境要因との関係の解析方

法の比較. 2002年度日本魚類学会年会講演要旨集:40.

佐藤陽一(2002.12)ハゼってどんな魚?ふる〜ぶ, 34:5.

佐藤陽一(2003.01)魚博士の吉野川魚図鑑連載第7回:タモロコ. 四国三郎吉野川, 13:5.

佐藤陽一・岡部健士\*(2003.3)魚類調査.(社)土木学会編「ダム水環境改善事業調査・河川環境調査合併調査委託報告書:勝浦川 勝浦郡上勝町~勝浦町 No.2, 平成15年3月」, (社)土木学会:6-1~13+177.

田辺 力(2002.7)片子とババヤステ-土壤動物学会奨励賞をいただいて-. だろのむし通信(日本土壤動物学会ニューズレター), 28:3-4.

田辺 力(2002.11)第12回国際多足類会議報告. Acta Arachnologica, 51:158-159.

#### 〈植物〉

小川 誠・木下 覚\*・片山泰雄\*・木村晴夫\*・木内和美\*・小松研一\*・植北ちず子\*・水上敏夫\*(2003.3)佐那河内村の植物相. 阿波学会紀要 第48号 佐那河内村総合学術調査, 阿波学会:25-36.

#### 〈地学〉

両角芳郎(2002.6)Our 徳島の自然と歴史の発信基地-地域に根ざした総合博物館をめざして-. 初等教育資料, 756号:74-75.

元山茂樹\*・寺戸恒夫\*・平尾尚史\*・小澤大成\*・石田啓祐\*・橋本寿夫\*・中尾賢一・森江孝志\*・森永 宏\*・福島浩三\*・香西 武\*(2002.3)佐那河内村に分布する地すべり地形と御荷鉾緑色岩類の岩石学的特徴. 阿波学会紀要 第48号 佐那河内村 総合学術調査, 阿波学会:1-12.

#### 〈考古〉

高島芳弘(2002.12)徳島の遺跡50選 9 前山古墳群(石井町石井) 徳島新聞, 12月15日朝刊.

高島芳弘(2003.2)徳島の遺跡50選 18 田浦の古墳群(小松島市田浦町) 徳島新聞, 2月16日朝刊.

魚島純一(2003.03)高松市長崎鼻古墳で確認された赤色顔料付着遺物の蛍光X線分析について. 高松市埋蔵文化財調査報告第62集, 高松市教育委員会:115-117.

#### 〈歴史〉

長谷川賢二・生駒佳也\*(2002.4)部落問題入門:部落差別をなくすために考えるべきことは何だろうか. 財団法人徳島県同和対策推進会編「展望 2002年度版」, 財団法人徳島県同和対策推進会:15-32.

長谷川賢二(2002.12)三好郡の中世一帯と交流一. 三好郡郷土史研究会誌, (11):3-8.

長谷川賢二(2003.1-3)阿波圏-不思議のハコ;鳥居

- 龍蔵と郷土史；遍路の季節。徳島新聞 1月11日；2月8日；3月8日朝刊。
- 長谷川賢二 (2003.3) 四国遍路史研究の課題をめぐって。鳴門教育大学「四国遍路八十八カ所の総合研究」プロジェクト報告書1。「四国遍路研究」：27-44。  
(民俗)
- 庄武憲子 (2002.9) 徳島県の祭礼山車。四国民俗, (35), 四国民俗学会：39-68。
- 庄武憲子 (2003.3) 徳島県の盆棚；農村舞台復活への活動；正月の年棚；新刊紹介 日本藍染め文化協会編『日本の藍－伝承と創造』。徳島地域文化研究, (1), 徳島地域文化研究会：17-38, 179, 180-181, 190。
- 磯本宏紀 (2002.12) 民俗学とまちづくり－民俗学、そして宮本常一を見直す流れの中から－。徳島県県民環境部地域振興局編「阿波の自治」61：22-25。
- 磯本宏紀 (2003.2) 書評『徳島県漁業史』。史窓, (33)：124-129。
- 磯本宏紀 (2003.3) カリサオ考－徳島県板野郡上板町での連枷調査から－。民具集積, (8)：35-45。
- 磯本宏紀 (2003.3) 道で結ばれる空間－三野町太刀野山の伝説から。徳島地域文化研究, (1)：128-139。
- 磯本宏紀 (2003.3) 新刊紹介：徳島県文化振興財団民俗文化財集編集委員会編『土成の民俗』。徳島地域文化研究, (1)：188-189。
- (4) 学会・研究会等での発表 (\*印：館外研究者)**
- 両角芳郎 (2002.10) 県立博物館と「文化の森」建設と評価。国立民族学博物館主催博物館学国際協力セミナー。
- 大原賢二 (2003.2) アサギマダラの移動の記録、2002年の四国の記録。日本鱗翅学会四国支部第8回例会(新居浜市)。
- 佐藤陽一 (2002.5) フォーラム「河川・湿地における生態系の保全・復元－その目標設定の考え方」コメント：水辺生態系の保全・復元目標は達成できるか？－理想と現実とのほざまで－。平成14年度土木学会四国支部第8回技術研究発表会(徳島)。
- 藤田博行\*・岡部健士\*・佐藤陽一 (2002.5) 勝浦川正木ダム上下流の魚類相とその生息環境。平成14年度土木学会四国支部第8回技術研究発表会(徳島)。
- 上月康則\*・佐藤陽一・村上仁士\*・花住陽一\*・倉田建悟\*・長地 洋\* (2002.5) メダカに対するカダヤシの攻撃行動について。平成14年度土木学会四国支部第8回技術研究発表会(徳島)。
- 佐藤陽一・岡部健士\*・竹林洋史\*・藤田博行\* (2002.10) 河川性魚類の生息と物理環境要因との関係の解析方法の比較。2002年度日本魚類学会年会(松本)。
- 田代優秋\*・上月康則\*・佐藤陽一・大久保美知子\*・花住陽一\*・山崎敬生\*・村上仁士\* (2003.3) 都市近郊農業水路における魚類相とその変動について。第30回四国魚類研究会(高知)。
- 花住陽一\*・上月康則\*・佐藤陽一・田代優秋\*・村上仁士\* (2003.3) 農業用水路網におけるメダカの生息ポテンシャル評価について。第30回四国魚類研究会(高知)。
- 田辺 力・曾田貞滋\* (2002.9) ババヤステ属における雌雄間のコンフリクトによる交尾器形態の多様化。日本昆虫学会第62回大会(富山)。
- 田辺 力 (2002.11) 多足類の分類と生態。第47回四国植物防疫協議会大会(徳島)。
- 田辺 力・曾田貞滋\* (2003.3) ババヤステ属における交尾器形態の進化：雌主導の雌雄間軍拡競争の影響。日本生態学会第50回大会(つくば)。
- 曾田貞滋\*・田辺 力 (2003.3) 交尾器の多様化による多発的種分化：ミドリババヤステ種複合体。日本生態学会第50回大会(つくば)。
- Tanabe, T., and T. Sota\* (2002.7) Rapid divergence of genitalia in the millipede genus *Parafontaria* driven by sexual conflict. 12th International Congress of Myriapodology (南アフリカ, ムツンジニ)。
- 船本常男\*・小川 誠・中村卓造\* (2002.9) 日本産ノリウツギ(ユキノシタ科)の細胞地理。日本植物学会第56回大会(京都)。
- 小川 誠 (2003.3) 情報システムの有効活用。MML研究会(小田原)。
- 中尾賢一 (2002.8) 地層と貝化石からみた干潟環境。徳島保全生物学研究会シンポジウム「干潟は生きている－吉野川河口」(徳島)。
- 横川浩治\*・中尾賢一 (2003.2) 日本産アワジチヒロ属貝類の系統進化と分類。日本貝類学会平成15年度(2003年度)大会(豊橋)。
- 魚島純一 (2002.12) 徳島県立博物館における銅鐸の調査。第7回中・四国九州保存修復研究会(広島)。
- 長谷川賢二 (2002.7) 四国における学芸員交流の試み。第25回西日本文系学芸員研究会(倉敷)。
- 長谷川賢二 (2002.11) 中世後期における修験道組織の一展開形態。徳島地方史研究会例会(徳島)。
- 長谷川賢二 (2002.12) 薩麻駅と薩摩郷。第41回四国中世史研究会(海部)。
- 庄武憲子 (2002.8) 徳島県の妖怪。四国民俗学会(香川)。
- 磯本宏紀 (2002.5) 伝承母体の再編－岡山県真庭郡落

合町吉の念仏踊りを事例として一、徳島民俗学会例会（徳島）

磯本宏紀（2002.6）八丈島民俗誌とその記述について、徳島地方史研究会例会（徳島）

磯本宏紀（2003.1）徳島県の潜水漁について、徳島民俗学会例会（徳島）

磯本宏紀（2003.3）カリサオ考、四国民具研究会合評会（高知）

## 7. 研究会・学会等の開催

### ●四国民具研究会

開催日：6月14日

会場：博物館講座室

参加者：15名

### ●植物談話会

開催日：平成13年4月～14年3月までの毎月1回

開催（土曜日の18：30から）

会場：博物館実習室

参加者：毎回約15名

### ●徳島地方史研究会例会

開催日：6月30日

会場：博物館講座室

参加者：8名

### ●巡礼研究会資料見学会

開催日：3月21日

会場：博物館講座室

参加者：7名

## Ⅲ 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来次の4つを基本方針として資料を収集している。

1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。

2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。

3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。

4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集する。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。また、資料の購入には美術品等取得基金を充てている。

収集した資料は、調査研究に役立てているだけでなく、展示や教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

平成14年度は5名(人文2、自然3)の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

### 1. 採集資料

●動物	
カワセミ	1点
園瀬川産魚類	多数
牟岐町大島産鳥類巢	1点
那賀川水系岡川産魚類	多数
石垣島産シロハラクイナ	1点
日本産多足類	多数
ドブガイ	4点
徳島県産水生半翅類	多数
マレーゼトラップによる県内産昆虫	50,000頭
●植物	
県内各地の標本	多数
●地学	
勝浦町アゲノ谷産白亜紀化石	30点
日本各地の更新世貝化石	多数
●考古	

石臼・石杵(若杉山遺跡周辺)	14点
土器・陶磁器・瓦・骨角器・鉄製品(牟岐大島)	130点

#### ●民俗

重り石	1点
-----	----

### 2. 購入資料

#### ●動物

カダヤシ拡大模型	2点
メダカ・カダヤシ小型模型	4点
日本のチョウ類標本	489点
ツキノワグマほか哺乳類剥製・骨格標本	14点

#### ●地学

外国産先ジュラ紀頭足類化石	16点
マダガスカル産白亜紀前期アンモナイト	8点
外国産中・古生代アンモナイト化石	22点
巨大白亜紀アンモナイト(レプリカ)	1点
モロッコ産ジュラ紀アンモナイト	2点
北海道及び淡路島産後期白亜紀アンモナイト	7点
外国産アンモナイト及びタコブネ化	6点

#### ●考古

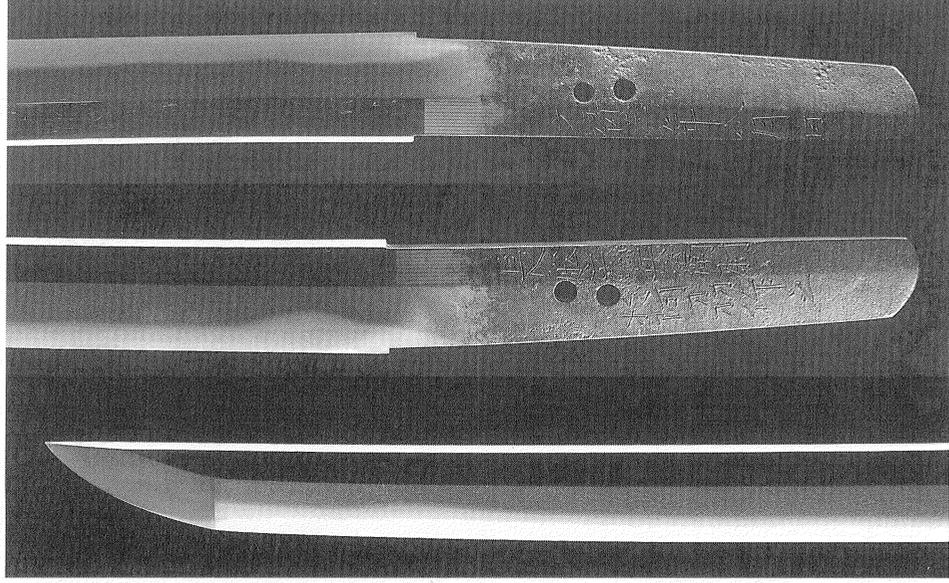
八貫渡銅鐸*	1点
--------	----

#### ●歴史

東宮御成婚記念日本交通分県地図-其八徳島県	1点
防空笠	3点
徳島藩役人書状	2点
徳島藩士錦絵版画	2点
防火弾他戦時国民生活資料	2点
万字紋柄鏡	1点
武器二百図	1点
徳島県戦後復興資料	4点
阿波国板野郡田上郷延喜2年戸籍写	1点
太万字紋柄鏡	1点
火縄銃・付随品	11点
マイクロフィルム版社寺取調類纂	68点
蜂須賀茂韶詩書	2点

#### ●美術工芸

若松鶏図・雪中梅鴛鴦図 松浦春挙筆	1点
鶴図 渡辺尚輝筆	1点



刀 長船彦兵衛尉 於阿州作之

- 阿波名勝図 藤重春山筆 4点
  - 東菊図小柄 野村正道作 1点
  - 白鷺図 中山養福筆 1点
  - 鍾馗図 鈴木芙蓉筆 1点
  - 中国人物図 河野榮寿筆 1点
  - 那智滝図 藤桃齋筆 4点
  - 枕上初集 柴野碧海編 10点
  - 瀛環志略 井上春洋ほか訓 3点
  - 図画酔芙蓉 鈴木芙蓉編 1点
  - 成立書并系図共 守住貫魚編 1点
  - 草花円文密陀絵食籠 伝谷田忠兵衛作 1点
  - 東方朔図 渡辺広輝筆 1点
  - 刀 長船彦兵衛尉 於阿州作之\* 1点
- (\*印は14年度資料収集委員会における審査資料)  
購入資料合計 1,005点

### 3. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）  
ツバメ

1点 篠原 拓也氏

- オオタカ 1点 柴折 史昭氏
- 鳥類 多数 曾良 寛武氏
- 母川産・黒谷川産魚類標本 多数
- 香川県産海産魚類標本 徳島県農山村整備課
- アフリカ産・南米産卵生メダカ 多数 横川 浩治氏
- クマタカ・キジ剥製 4点 吉田 卓史氏
- シロチチブ 2点 広常 弘幸氏
- ヒヨドリ 8点 横川 浩治氏
- 徳島市産淡水魚類標本 1点 徳山 豊氏
- ヤイロチヨウ 多数 徳島市
- アオダイシヨウ 1点 松本 久市氏
- 徳島県産用水路魚類標本 多数 文化の森ビルメンテナンス
- アカシヨウビン 1点 徳島県農山村整備課
- 松茂町中喜来地区産魚類標本 多数 吉田 和人氏
- テ 徳島大学工学部
- ホトトギス・ハチクマ 1点 阿部 博樹氏
- 半田町・三好町産用水路魚類標本 2点 吉田 和人氏
- 母川産ナマズ・カワアナゴ 多数 徳島県農山村整備課
- 松茂町・大麻町産魚類標本 2点 (社)農村環境整備センター
- ハセイルカのストランディング写真 多数 徳島県農山村整備課
- ノゴマ 6点 池淵 正明氏
- セミホウボウ 1点 大石 征也氏
- テ 1点 山口 明氏
- 松茂町中喜来地区産魚類標本 1点 森本 康滋氏
- 韓国産ヨシノボリ類標本 多数 徳島大学工学部
- ニホンキジ 1点 岩田 明久氏
- ドチザメ 1点 大塚 義樹氏
- ゴイサギ 1点 徳島西警察署
- トラツグミ 1点 中津富紀子氏
- シロハラ・ジョウビタキ 1点 白井 啓二氏
- オオタカ 2点 八巻 吉子氏
- ドロクイほか魚類 1点 吉田 和人氏
- イカル 多数 高橋 弘明氏
- 動物（無脊椎動物） 1点 西岡 啓二氏
- カブトガニ 1点 石井 恒義氏
- オオツチグモ科の一種 1点 野口 航大氏
- 植物 多数
- ミラノ産種子標本他 多数 森本 康滋氏

ツボミオオバコ	2点	佐治まゆみ氏
オオムギ	1点	吉成 宏氏
ウシノケグサ属植物	1点	田淵 武樹氏
インドネシア産果実標本	3点	西山 保典氏
センノウ	3点	長谷川綾子氏
オヒゲシバ	1点	真鍋 邦男氏
沖縄県産植物標本	14点	船越 英伸氏
モンキーポット果実	2点	瀬川 忠之氏
キバナアマ	1点	和田 茂夫氏
モダマ種子・果実標本	1点	金井 賢一氏
イネ科植物標本	30点	木下 覚氏
変形菌類標本および文献	10点	石井 愷義氏
シマシロヤマシダ他	2点	中村喜代治氏
ヒゲネワチガイソウ他	24点	片山 泰雄氏
<b>●地学</b>		
鳴門海峡海底産貝化石	9点	小野 守氏
下総層群貝化石ほか	20点	亀井 節夫氏
ビロウドタマキ	4点	遠藤 浩氏
大桑層産動物化石	2点	中根 昭氏
マダガスカル産アンモナイトほか	5点	吉田 浩一氏
カモノアシガキ化石ほか	4点	三本 健二氏
アワジチヒロ化石	18点	川瀬 弘氏
クルミ化石	2点	鎌田 誠一氏
日和佐町産沖積層貝化石	1点	
		(株)エイトコンサルタント
勝浦町産前期白亜紀アンモナイト	1点	大地 晴明氏
勝浦町産前期白亜紀オウムガイ	1点	板東 一郎氏
淡路島産ディディモセラス (レプリカ)	1点	金澤 芳廣氏
稲井層群産三疊紀アンモナイト	1点	吉田 浩一氏
<b>●考古</b>		
前山遺跡出土埴輪片・須恵器片	51点	大平馬喜太氏
<b>●歴史</b>		
鳥居龍蔵書簡ほか	2点	天羽 利夫氏
板碑拓本	85点	竹篠 教悟氏
拳銃	1点	七條 勝氏
軍用銃	1点	阿南警察署長
防空用消火バケツほか	8点	三好 博之氏
旧日本軍陸軍大尉遺品	22点	高源進太郎氏
<b>●民俗</b>		
人寄せの道具	14点	延原 博之氏
看板	2点	長尾 常夫氏
藍商具ほか	4点	元木 康夫氏
絵はがき	3点	田中 泰平氏
カリサオ	1点	板東豊太郎氏
カルサオ	1点	福島 英雄氏

## 4. 寄託資料

### ●考古

東山出土備前壺及び古銭	1608点	藤枝 勝義氏
勢合銅鐸	1点	西野 武明氏
ガラス製水注	1点	藤野 安信氏

### ●歴史

飯尾常連奉書ほか	3点	緒方 俊仁氏
麻植郡川田山棟付帳	9点	住友 房子氏

### ●民俗

初代天狗久作 加藤清正頭ほか	2点	吉岡 久治氏
祭礼用馬具及び衣装	110点	貝出 昭氏

### ●美術工芸

梅山水図ほか 河野栄寿筆	3点	濱本 良治氏
四季山水図屏風 安藤止堂筆	1点	元木 康夫氏

## 5. 資料の貸し出し

### ●動物

スナヤツメ写真	4点	愛媛県魚病指導センター
吉野川カンドリ舟写真	2点	
		瀬戸内海歴史民俗資料館
メダカ・カダヤシ模型	1点	川内北小学校
スナヤツメ標本	16点	
		京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科
ツルグレン装置	5台	川内北小学校

### ●植物

ハルガヤ属標本	8点	神奈川県立生命の星地球博物館
ホシクサ属標本	30点	高田 順氏
阿部近一氏研究資料	35点	
		高知県立牧野植物園
植物写真	3点	(株)サプライズ

### ●地学

勝浦町産出イグアノドン歯化石 (複製)	1点	和歌山県立自然博物館
徳島県産マンガン鉱物など	8点	海南町立博物館
徳島県産マンガン鉱物など	8点	
		土成町郷土博物館
徳島県産マンガン鉱物など	8点	
		松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館
鉱物標本	5点	
		愛媛県総合科学博物館

### ●考古

若杉山遺跡出土品	2点	
----------	----	--

## ●分野別収蔵資料数（平成15年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物(脊椎)	16,565	16,491	55	13	6
(無脊椎)	36,098	36,040	0	58	0
(昆虫)	182,521	182,121	0	3	397
植 物	181,617	181,270	61	5	281
地 学	7,138	7,044	92	2	0
考 古	3,363	3,218	73	13	59
歴 史	8,704	7,919	23	4	758
民 俗	4,704	4,694	5	5	0
美 術 工 芸	5,101	5,092	0	4	5
合 計	445,811	443,889	309	107	1,506

山城町石の博物館  
 復元青銅器・石鏃 26点 応神中学校  
 若杉山遺跡 D-8区出土土器 岡山真知子  
 恵解山9号墳出土土珠文鏡ほか青銅鏡、鉄製武器など  
 19点 徳島市教育委員会（徳島市立考古資料館）  
 郡里廃寺出土瓦 1点  
 満濃町教育委員会  
 内ノ御田瓦窯出土瓦ほか瓦・土器類 24点  
 徳島市教育委員会（徳島市立考古資料館）

## ●歴史

徳島大空襲関係資料 37点 小松島中学校  
 徳島大空襲関係資料 37点 千松小学校  
 徳島大空襲関係資料 37点 川内中学校  
 戦争関係資料 72点 由岐町青年会

## ●美術工芸

越前国白山真景図 守住貫魚筆  
 1点 石川県立歴史博物館  
 みとものつら絵巻 村瀬魚親筆  
 2点 社団法人霞会館  
 刀 阿州住氏吉ほか 6点 海南町立博物館

## ●民俗

静御前 義経千本桜 初代天狗久作ほか  
 4点 徳島市立徳島城博物館

## 6. 資料の交換

## ●植物（受入数）

福島大学(FUKU) 105点  
 北海道大学(SAPS) 87点  
 Oregon State University(OSC) 252点

## 7. 館蔵資料数

平成14年3月末日現在の分野別収蔵資料数は前表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等がすんだものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

## 8. 資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、「美術品等取得基金による美術品等の取得要領」の規定に従って、200万円以上の購入資料について審査する。

委員は常任委員（5名以内、任期2年）と特別委員（3名以内）から構成されており、特別委員は、購入

## ●博物館資料収集委員会委員

（◎委員長、○副委員長）

氏 名	役 職（専門分野）
◎高橋 啓	鳴門教育大学学校教育学部教授 （歴史）
○石田 啓祐 坂本 憲一	徳島大学総合科学部教授（地学） （助徳島県文化振興財団事業部主幹 （民俗）
福原 健生	元徳島市立徳島城博物館館長 （美術工芸）
米澤 義彦	鳴門教育大学学校教育学部教授 （生物）

資料に応じて特に必要がある場合にその都度委嘱される。

本年度は、平成15年2月4日に第16回委員会を開催し、「1. 購入資料」にリストした人文資料2件の購入を諮問した。

## 9. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究にはもちろんのこと、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

### ●購入図書冊数（データベース登録数）

11,241冊（平成14年度分 419冊）

### ●購入雑誌

自然史系（26タイトル）：生物科学、科学、日経サイエンス、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、プラント、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、月刊地球、American Journal of Botany, Cladistics, Episodes, Evolution, Geology, Journal of Evolutionary Biology, Journal of Paleontology, Nature, Paleobiology, Plant Systematics and Evolution, Science, Systematic Botany, The American Naturalist, Trends in Ecology and Evol., Biological Journal of Linnean Society

人文系（34タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸術新潮、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、民族学研究、日本の美術、日本民俗学、日本歴史、日本史研究、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、歴史地理学、史林、史学雑誌、信濃、Folklore, Journal of American Folklore

### ●当館刊行物の定期発送先（平成15年3月末現在）

博物館ニュース		1,436ヶ所
博物館年報		499ヶ所
研究報告	国内	544ヶ所
	国外	153ヶ所
展示解説		241ヶ所
企画展図録	自然	134ヶ所
	人文	238ヶ所

## 10. 資料の燻蒸

収集した資料、貸し出し後返却された資料は、原則としてすべて収蔵庫への搬入、展示に先だつて燻蒸を行う。

当館では資料の形態や量などによって、次の3種類の燻蒸を行っている。

### ●減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm（約2.3m<sup>3</sup>）で、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

14年度は14回の減圧燻蒸装置による燻蒸を行った。

### ●常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20m<sup>2</sup>×高さ3m（約60m<sup>3</sup>）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託し、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

14年度は、4回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

### ●収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなつて、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

14年度は、生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫（馴化室、特別収蔵庫1、2を含む）、及び考古収蔵庫の全室密閉燻蒸を実施したが、臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用しての燻蒸が次回に実施できるかどうか、現時点では不明である。

## Ⅳ 普及教育事業

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成14年度は、年間75回の普及行事を実施した。普及行事は県民のあいだに定着してきてはいるが、参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、歴史散歩、野外自然かんさつ、移動講座において、郡部での開催を増やすなどの工夫をしているが、徳島市以外での行事に対しても参加者は徳島市、鳴門市、小松島市及び名西郡石井町等からの参加者が多い。今後、広報の方法などにもさらに工夫が必要であると考えている。

### 1. 普及行事

#### ■歴史体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

4月27日(土)	石オノをつくろう	参加者	28人
6月2日(日)	江戸時代の農民の主食／麦ごはんを食べてみよう		24人
7月21日(日)	火おこし①		31人
8月24日(土)	火おこし②		25人
9月28日(土)	土器づくり①(成形)		33人
10月26日(土)	土器づくり②(焼成)		34人
11月24日(土)	石のナイフで切ってみよう		13人
12月7日(土)	ベーゴマをまわしてみよう		26人
12月15日(日)	古代の乳製品をつくろう		19人
3月1日(土)	勾玉をつくろう		42人

#### ■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

5月19日(日)	古墳見学①		36人
6月16日(日)	蜂須賀家の墓をしらべよう		33人
9月8日(日)	脇町を歩こう		17人
11月10日(日)	辻町を歩こう		4人
2月15日(日)	古墳見学②		29人
3月23日(日)	国府町歴史ウォーク		22人

#### ■野外自然かんさつ

野外にでかけて行う季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。14年度は文化の森周辺のほか、徳島市、鳴門市、引田町、勝浦川河口、那賀川町、羽ノ浦町、由岐町、などで実施した。

5月12日(日)	磯のいきもの①		76人
5月26日(日)	磯のいきもの②		63人
6月9日(日)	引田町城山の地質見学		8人
7月28日(日)	川魚かんさつ		42人
8月3日(土)	水生昆虫のかんさつ		69人
8月4日(日)	漂着物探し		32人
9月14日(土)	鳴く虫のかんさつ		34人
9月22日(日)	河口のいきもの		29人
10月6日(日)	地層の観察		18人
10月13日(日)	アサギマダラをさがそう		17人
11月17日(日)	徳島市内の地質見学		10人
3月16日(日)	立川谷の地質見学		雨天中止

#### ■ミュージアムトーク

土曜日の午後1時30分から1時間ほど、学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。申し込み不要・定員先着50名で実施している。

5月11日(土)	ちょっとマニアックな貝化石の話		11人
7月13日(土)	関ヶ原合戦と蜂須賀家		28人
9月14日(土)	古代のわざ		8人
12月14日(土)	渡辺広輝の画業		5人
1月25日(土)	八丈島のなりわいと移り変わり		7人
2月8日(土)	種と実のはなし		3人

#### ■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡、蛍光X線分析装置、赤外線テレビカメラ等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか8名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないで、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

4月28日(日)	春の野草かんさつ		16人
8月3日(土)	こどもレプリカ教室		49人

8月10日(土)	植物標本の作り方・名前の調べ方	19人
8月18日(日)	かんたんな貝の標本の作り方	49人
8月23日(金)	標本の名前を調べる会	200人
10月20日(日)	秋の草と実	16人
1月19日(日)	落ち葉のいきものたち①	22人
2月9日(日)	貝化石標本の作り方	13人
3月2日(日)	落ち葉のいきもの②	14人
3月9日(日)	美術品の取りあつかいと鑑賞	8人

#### ■移動講座

移動博物館の試みとして、学芸員が講師をつとめて館外の社会教育施設と共催で行う講座。14年度は5～6月に阿波海南文化村で、1～2月に井川町ふるさと交流センターで実施した。

5月26日(日)	阿波忌部の世界①	47人
6月23日(日)	阿波忌部の世界②	50人
1月26日(日)	阿波忌部の世界①	33人
2月23日(日)	阿波忌部の世界②	27人

#### ■みどりの探検隊

4月21日(日)	春的那賀川に咲く植物を探そう	雨天中止
8月17日(土)	夏的那賀川に咲く植物を探そう	9人
9月29日(日)	秋的那賀川に咲く植物を探そう	増水中止
10月27日(日)	那賀川の河口に咲く花を探そう	6人

#### ■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。

8月25日(日)	葉脈標本できれいなしおりを作ろう	36人
11月2日(土)	ドングリゴマをまわそう	25人
12月1日(日)	雑草で年賀状をつくろう	13人
2月2日(日)	ウツギの笛づくり	22人
2月16日(日)	竹であそぼう	12人

#### ■企画展関連行事

企画展開催中に、次の記念講演会及び展示解説を行った。

##### ●企画展「貝化石が語る海の記憶」展示解説

- 第1回：4月14日(日) 参加者60人
- 第2回：4月28日(日) 参加者20人

##### ●企画展「海道をゆく一黒潮のはこだもの一」黒潮トーク

- 7月28日(日) 隆起を続けるサンゴ礁の島ー喜界島 17人
- 8月4日(日) 植物の目から見た黒潮の道 6人

8月11日(日)	コメの渡来ルート	25人
8月18日(日)	イモの祭り(根菜農耕文化と黒潮の道)	10人
8月24日(土)	本土と南西諸島のヤスデ・貝・カニ	9人
8月25日(日)	南島の熊野信仰	16人
9月1日(日)	昆虫と黒潮の道	18人

##### ●企画展「古代のわざ」記念講演会

11月3日(日)

会場：文化の森イベントホール

講師：木村法光氏(京都市立芸術大学教授、前宮内庁正倉院事務所保存課長)

演題：正倉院宝物に見るいにしへのわざ

参加者：67人

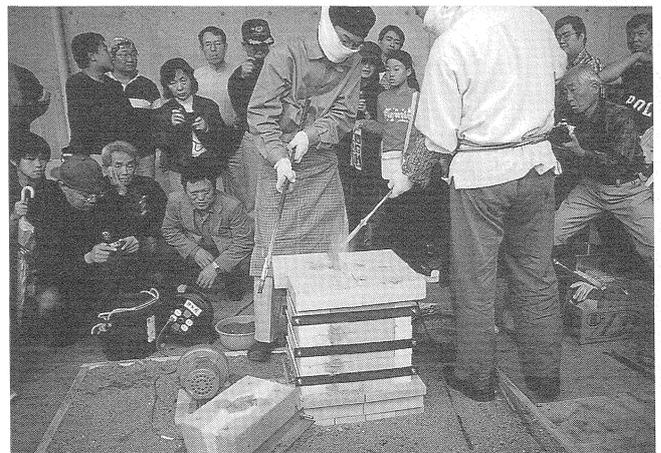
##### ●企画展「古代のわざ」銅鐸の復元製作実演

10月20日(日)

会場：文化の森野外劇場

実演者：小泉武寛氏・小泉裕司氏(金属工芸家)

参加者：136人



##### ●企画展「古代のわざ」展示解説

第1回：10月13日(日) 参加者29人

第2回：11月4日(月) 参加者23人

#### ■特別陳列関連行事

##### ●特別陳列「丹波マンガン鉱山の記録ー在日コリアンの労働史ー」展示解説

7月6日(土) 参加者48人

#### ■巡礼研究講演会「四国遍路と六十六部」

3月22日(土) 参加者173人

会場：文化の森イベントホール

### ■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日（祝日を除く）に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に簡単な記念品を贈呈している。

4月13日(土)	200人	(小 194・中 5・高3)
4月27日(土)	138人	(小 128・中 9・高1)
5月11日(土)	107人	(小 103・中 4・高0)
5月25日(土)	110人	(小 105・中 5・高0)
6月8日(土)	196人	(小 185・中 11・高0)
6月22日(土)	116人	(小 105・中 9・高2)
7月13日(土)	123人	(小 119・中 4・高0)
7月27日(土)	85人	(小 81・中 3・高1)
8月10日(土)	121人	(小 112・中 9・高0)
8月24日(土)	86人	(小 76・中 8・高2)
9月14日(土)	167人	(小 158・中 9・高0)
9月28日(土)	67人	(小 63・中 4・高0)
10月12日(土)	123人	(小 116・中 5・高2)
10月26日(土)	114人	(小 110・中 2・高2)
11月9日(土)	88人	(小 84・中 2・高2)
12月14日(土)	115人	(小 115・中 0・高0)
1月11日(土)	76人	(小 70・中 2・高3)
1月25日(土)	75人	(小 74・中 1・高0)
2月8日(土)	102人	(小 106・中 2・高2)
2月22日(土)	71人	(小 68・中 3・高0)
3月8日(土)	104人	(小 101・中 3・高0)
3月22日(土)	65人	(小 62・中 2・高1)
参加者合計	2,449人	(小2,329・中101・高19)

### ■その他の普及行事

#### ●博物館こどもの日フェスティバル

5月5日(日)

博物館と友の会の共催でウォークラリーを実施した。文化の森に10のチェックポイントを設置し、それぞれの問題を解きながら各施設をめぐる。小学生以下の子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者：1,195人

## 2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等

館外からの依頼を受けて行った講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等を、月日・担当者・内容（依頼者）

の順に記す（内容に依頼者が表現されている場合は依頼者を省略）。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない限り依頼を受け入れることにしている。

- 4月11日 茨木 靖 NHK テレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（モダマ）
- 4月20日 長谷川賢二 三好郡郷土史研究会総会で講演「三好郡の中世」（池田町保健センター）
- 6月6日 田辺 力 NHK テレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（ゲジのはなし）
- 7月21日 中尾賢一 日本野鳥の会徳島支部「沖洲海岸観察会」講師
- 8月9日 長谷川賢二 城北高等学校職員人権教育研修会で講演「博物館における展示と人権」
- 9月26～27日 佐藤陽一 (社)農村環境整備センター「農村環境技術研修」講師（海部町）
- 9月28日 長谷川賢二 ヒストリーチャンネル（CS）「ものの怪のすむ国（後編）」出演
- 10月18日 佐藤陽一 阿南市中野島総合センター「岡川の生物観察」講師
- 10月18日 魚島純一 NHK テレビ「情報交差点－とくしま OUR ギャラリー」出演（企画展「古代のわざ」紹介）
- 10月24日 大原賢二 NHK テレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（アサギマダラ－3）
- 11月14日 茨木 靖 NHK テレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（オニグルミ）
- 11月15日 佐藤陽一 土木学会四国支部「技術講習会」講師（徳島大学工学部）
- 11月16日 佐藤陽一 国土交通省四国地方整備局「世界子ども水フォーラム in 四国」講師（吉野川ハイウェイオアシス）
- 12月4日 魚島純一 四国放送ラジオ「えんやこらワイド NTT DOCOMO 街角レポート」出演（歴史体験「ペーゴマをまわしてみよう」紹介）
- 12月5日 中尾賢一 NHK テレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（鳴門海峡の貝化石）
- 1月17日 佐藤陽一 牟岐町産業課からの依頼による牟岐川の魚道視察
- 1月23日 両角芳郎 NHK テレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（阿讃山地の化石）
- 2月4日 大橋俊雄 NHK テレビ「情報交差点－OUR ギャラリー」出演（特別陳列「楠コレクションの美術・歴史資料」の紹介）
- 2月6日 中尾賢一 NHK テレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（ハイガイとその化石）
- 2月8日 魚島純一 四国放送ラジオ「土曜ワイドと

くしま」出演（バーゴマについて）

2月12日 長谷川賢二 同和問題に取り組む徳島県宗  
教者連帯会議代表者研修会で講演「部落差別と迷  
信・ケガレ観念のあいだ」（ホテル千秋閣）

### 3. 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条で、学芸員  
となる資格を取得するために「大学において修得すべ  
き博物館に関する科目」と規定されているもののひと  
つで、登録博物館または博物館相当施設における実習  
で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により原則として県出身  
の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を  
行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望  
者が多い場合は調整を行い、20数名をめどに承諾書を  
発行することになっている。

平成14年度は、8月19～23日に実習生の受け入れを  
行った。実習生は25人（男2人、女23人）で、大学別  
の内訳は次のとおりである。

四国大学	10人	徳島文理大学	4人
徳島大学	4人	愛媛大学	1人
高知女子大学	1人	滋賀県立大学	1人
神戸学院大学	1人	神戸女子大	1人

カリキュラムは別表のとおりで、指導の都合上、少  
人数のグループに分割した時間帯もある。学芸員と普

及係職員が指導にあたり、資料の整理や調査などに  
ついての実習を行った。

### 4. 学校教育との連携

博物館ではこれまでも、学校行事（遠足等）での  
団体見学の受け入れや児童・生徒向けの各種普及行事  
などを行ってきた。しかし、最近の教育改革に伴う学  
校完全週5日制や「総合学習」の導入、社会人講師の  
受入れ等々と関連し、博物館等の社会教育機関に対  
してもっと積極的な学校教育への支援が要請されるよ  
うになってきた。

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習がで  
きる場であり、学校教育にとって役立つところである  
はずである。当館としても博物館のもつ資源（もの・  
情報・人）とその活用法を普及するとともに、意識的・  
系統的に学校教育を支援する活動を行っていくことに  
している。

平成12・13年度には「博物館と学校との連携に関  
する研究会」（略称「博学連携研究会」）を組織し、博  
物館と学校との連携のあり方等についての協議を行っ  
てきた。それを踏まえて、14年度は各支援事業を発展さ  
せ、年度末にはその成果を教育利用説明会で発表した。

#### (1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業、「総合学習」での活動と関連

#### ●14年度博物館実習カリキュラム

月/日	午前（9:30～12:00）		午後（13:00～16:00）		（16:00～16:30）
8/19（月）	オリエンテーション（大橋）	全員	民具資料の整理（磯本）	A班	ノート記入 全員
	博物館の運営について（両角）	全員	貝化石標本の作成（中尾）	B班	
	館内見学（大橋）	全員	植物標本の作成と整理（茨木）	C班	
8/20（火）	貝化石標本の作成（中尾）	A班	歴史資料の整理（山川）	A班	ノート記入 全員
	民具資料の整理（庄武）	B班	民具資料の整理（庄武）	B班	
	昆虫採集と標本作成（大原）	C班	昆虫採集と標本作成（大原）	C班	
8/21（水）	普及行事の準備（魚島）	A班	普及関係業務（上野・坂本）	A班	ノート記入 全員
	美工資料の整理（大橋）	B班	普及関係業務（上野・坂本）	B班	
	普及関係業務（上野・坂本）	C班	普及行事・展示企画演習（田辺）	C班	
8/22（木）	美工資料の整理（大橋）	A班	淡水魚の調査法（佐藤）	A班	ノート記入 全員
	植物標本の整理と行事準備（小川）	B班	植物標本の整理と行事準備（小川）	B班	
	博物館の環境管理（魚島）	C班	美工資料の整理（大橋）	C班	
8/23（金）	標本の名前を調べる会（田辺）	A班	標本の名前を調べる会（田辺）	A班	ノート記入 全員
	大森荒神社貝塚の資料整理（高島）	B班	大森荒神社貝塚の資料整理（高島）	B班	
	歴史資料の整理（長谷川）	C班	歴史資料の整理（長谷川）	C班	

A：8人，B：8人，C：9人

して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えてきた。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言するなどの支援を行った。

①横瀬小学校（勝浦町）6年生・25人

7月2日（火）

総合学習で、勝浦町の歴史を調べるために館の展示を利用した。資料について学芸員から説明を行った。（担当者：山川）

②城北高校（徳島市）2年生・8人

8月7日（水）

日本史野外講義として来館。（担当者：長谷川）

③八万南小学校（徳島市）3年生・111人

9月11日（水）

社会科「昔の道具調べ」で来館。所蔵資料を臨時に実習室へ陳列し、学芸員が説明しながら体験学習を行った。（担当者：庄武・磯本）

④八万小学校（徳島市）3年生・128人

10月18日（金）

社会科「昔の道具調べ」で来館。所蔵資料を臨時に実習室へ陳列し、学芸員が説明しながら体験学習を行った。（担当者：庄武・磯本）

⑤八万南小学校（徳島市）6年生

10月29日（火）127名・11月19日（火）45名

総合学習（調べ学習）で来館。1日目に博物館の展示や文化の森各施設を見学し、各々が課題を設定した。その中で博物館について課題をもっている児童が2日目再来館。それぞれの課題について学芸員が説明後、博物館の裏側見学も行った。（担当者：両角・中尾・庄武・佐藤・茨木・大原）

⑥久勝小学校（阿波町）6年生・46名

10月31日（木）

理科教育の一環として講座室で地層と化石について説明。その後常設展を見学した。（担当者：中尾）

⑦上八万小学校（徳島市）4年生85人

11月8日（金）

総合学習のテーマとして取り上げている「太鼓づくり」について調べるために来館。（担当者：長谷川）

⑧早稲田実業学校（東京都）高等部2年生・5人

12月20日（金）

校外教室（地域調査）「徳島藩についての調査」で来館。（担当者：山川）

⑨加茂名中学校（徳島市）2年生・13人

11月22日（金）

アイヌについての聞き取り調査のために来館。（担当者：庄武）

## (2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

①八万南小学校（徳島市）5月1日（水）・2日（木）

6年生3クラスで社会科の学習「火おこし」の授業を、博物館から持参した火おこしの道具を使って教員と協同して行った。（講師：魚島）



八万南小学校での火おこし

②大松小学校（徳島市）5月10日（金）

6年生2クラスで社会科「大昔の人々の暮らし（古墳について）」の授業を行った。（講師：高島）

③国府小学校（徳島市）6月24日（月）

4年生140名で用水路における魚類の生息調査を行った。（講師：佐藤）

④池田小学校（池田町）7月2日（火）

5年生70名にメダカの観察の仕方を講義しその後ビオトープ予定地において実地指導を行った。（講師：佐藤）

⑤神山東中学校（神山町）7月15日（月）

全校生徒を対象にして、総合学習で水生昆虫の生息調査をもとにした水質の判定を行った。（講師：大原）

⑥川内北小学校（徳島市）11月1日（金）

4年生90名に総合学習「土の中のいきものを調べよう」の授業として土壌生物についての説明を行った。（講師：田辺）

⑦木頭小学校（木頭村）11月27日（水）

1・2年生18名を対象に落ち葉を利用したカルタづくりを実施。また、6年生17名を対象に地層の授業を実施。（講師：小川・中尾）

⑧宝田小学校（阿南市）12月4日（水）



木頭小学校での出前授業風景

6年生37名を対象に理科「大地のつくり」についての授業を実施。所蔵資料を示しながら化石などについて話した。(講師：中尾)

⑨板野東小学校(板野町) 2月14日(金)

5年生33名にメダカをとおして環境問題について考える授業を行った。(講師：佐藤)

⑩伊島小学校(阿南市) 2月25日(火)

全校9名を対象に伊島近海の魚について授業を実施。(講師：佐藤)

⑪八万南小学校(徳島市)

1年生109名に国語「たぬきの糸車」で、実物の糸車を提示し、その使用方法などについて話した。(講師：庄武)

### (3) 博物館資料の学校への貸出し

学校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸出しを行っている。学校貸出用資料リストを学校に配布して利用を呼びかけているが、まだ利用は少ない。

貸出用資料の一層の利用促進を図るため、作年度末に学校貸出用資料解説シートを印刷し、今年度小中学校および高校に配付した。また、来館した教職員には必要に応じて解説シートを配布し利用を勧めた。

①北小松島小学校(小松島市) 4月27日

貸出資料：復元青銅器(銅鐸、銅剣、銅矛、銅戈)  
利用目的：社会科の授業で利用

②日和佐小学校(日和佐町) 5月4日～5月11日

貸出資料：火おこし道具一式  
利用目的：社会科の授業で利用

③上勝中学校(上勝町) 6月8日～6月19日

貸出資料：石鏃・トロトロ石器・須恵器・復元青銅器・火おこし道具  
利用目的：社会科の授業で利用

④川内北小学校(徳島市) 6月12日～7月19日

貸出資料：メダカ・カダヤシ拡大模型  
利用目的：理科の授業で利用。また、飼育水槽横に展示した。

⑤小松島中学校(小松島市) 6月18日～7月5日

貸出資料：徳島大空襲解説パネル・同写真パネル・同遺物  
利用目的：総合学習で平和学習・人権学習に利用

⑥城西中学校(徳島市) 6月23日～7月12日

貸出資料：雑草で紙づくり実習キット  
利用目的：選択理科の授業で利用。

⑦津乃峰小学校(阿南市) 6月27日

貸出資料：火おこし道具  
利用目的：教育キャンプで使用

⑧千松小学校(徳島市) 7月3日～7月5日

貸出資料：徳島大空襲解説パネル・写真パネル・防空頭巾等  
利用目的：総合学習「徳島大空襲を考えよう」で利用

⑨川内中学校(徳島市) 9月10日～9月28日

貸出資料：徳島大空襲資料  
利用目的：文化祭ならびに総合学習の時間に利用。

⑩川内北小学校(徳島市) 10月23日～11月8日

貸出資料：ツルグレン装置  
利用目的：総合的な学習の時間に利用。

⑪太田小学校(貞光町) 12月11日～12月21日

貸出資料：火おこし道具  
利用目的：5・6年生の体験学習に利用。

⑫太田小学校(貞光町) 2月22日～3月1日

貸出資料：火おこし道具  
利用目的：5・6年生の体験学習に利用。

### (4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校での職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

①八万中学校(徳島市) 9月10日～9月14日

3名 総合学習の一環として実施。

②加茂名中学校(徳島市) 10月1日～10月3日

4名 文部科学省：豊かな体験活動推進事業の一環として実施。

③城南高校(徳島市) 12月13日

2名 県インターンシップ推進事業

④城ノ内高校(徳島市) 12月16日～12月17日

3名 県インターンシップ推進事業

## (5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、教員対象の研修会を当館で実施し、当館職員が指導に当たった。

### ①海部郡小学校理科教育研究会

6月1日(土) 博物館バックヤード 参加者11名  
見学：収蔵庫等の博物館の裏側見学(案内：大原・坂本)

### ②平成14年度初任者研修講座

8月23日(金) 21世紀館会議室 参加者29人  
講義：博物館の概要及び学校教育との連携(講師：両角)  
博物館の普及活動について(講師：坂本)  
見学：博物館の裏側見学(案内：大原・魚島・上野)

### ③徳島県中学校社会科研修会夏期巡検

8月27日(火) 博物館講座室 参加者20人  
見学：収蔵庫等の博物館の裏側見学  
企画展の展示解説(案内：魚島・上野)

### ④徳島市小学校総合学習部会研修会

10月17日(木) 博物館実習室 参加者35名  
講義：博物館と学校教育との連携について(講師：坂本)  
実習：秋の草と実(講師：茨木)

### ⑤名西郡中学校理科部会研修会

10月25日(金) 博物館バックヤード 参加者10名  
見学：収蔵庫等の博物館の裏側見学(案内：大原・坂本)

## (6) 博物館の教育利用説明会の実施

「博物館と学校との連携に関する研究会」を過去2年間開催し、議論を重ねてきた。今年度は授業に役立つ博物館の利用方法を紹介するとともに、今までに博物館が実施した学校教育支援事業の成果を発表するための教育利用説明会を実施した。



●日時 2月1日(土) 13:00~16:30

### ●内容

〈授業に役立つ博物館利用法〉

- ・県立博物館の学校教育支援事業について(講師：坂本)
- ・インターネットを利用した博物館情報の活用について(講師：小川)

〈貸し出し資料の展示と説明〉(各学芸員)

〈博物館利用実践例の発表〉

- ・博物館を利用した授業を通して(八万南小学校 河野 俊恵)
- ・出前授業「地層の学習」を通して(木頭小学校 片岡 弘治)
- ・貸出資料「徳島大空襲」を利用して(川内中学校 小原 伸二)

〈博物館裏側見学〉(案内：魚島・大原)

●参加者 44名

## (7) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて教員の相談に応じることにしている。

## 5. 博物館の広報活動

博物館ニュースをはじめ、企画展ポスター、年間催し物案内リーフレット、月間催し物案内等を定期的に幅広く配布することにより、博物館活動のPRにつとめている。これらは県庁記者クラブを通じて広報するほか、報道機関やタウン紙編集室などへも直送している。また、必要に応じて報道機関への資料提供を行っている。さらに、電子メールを利用した催し物案内サービスも行った。

### ●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

小学校	236カ所
中学校	96
高等学校・その他学校	61
学会・研究所・同好会等	100
県および県教育委員会各課・機関	59
市町村教育委員会	50
公民館・隣保館	237
市町村および大学図書館	33
博物館施設	441

宿泊施設 43  
報道関係機関等 69

●電子メールサービス

登録者 393人（平成15年3月31日現在）

●報道機関への資料提供

毎月の催し物案内・県庁だよりや美術品等取得基金によって8月末、11月末、3月末に購入した資料の内容についても資料提供を行った。

4月20日 「博物館こどもの日フェスティバル」の開催について

6月4日 特別陳列「丹波マンガン鉱山の記録－在日コリアンの労働史－」の開催について

6月4日 部門展示「前山古墳群の発掘調査」の開催について

7月16日 企画展「海道をゆく－黒潮のはこんだもの－」の開催について

9月10日 部門展示「知らせる道具・広告」の開催について

10月2日 企画展「古代のわざ」の開催について

10月25日 移動展「昆虫の世界」の開催について

11月29日 部門展示「石垣島の民具」の開催について

1月15日 特別陳列「楠コレクションの美術・歴史資料」の開催について

3月11日 巡礼研究講演会「四国遍路と六十六部」の開催について

## 6. 博物館友の会

●会員（平成14年度末）

個人会員（年会費 2,000円） 112人

家族会員（年会費 3,000円） 81組・312人

賛助会員（年会費10,000円） 1人

●役員（平成14年度）

会長：寺戸恒夫

副会長：両角芳郎（博物館長）・和田賢次・関眞由子

幹事：石原 侑・徳山 豊・多田精介・檜原剛一・南部洋子・木下 覚・澤祥二郎・大杉洋子

監査：森本康滋・川下浩子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布

博物館発行の企画展図録および解説書の増刷・頒布を行った。

②広報活動

13年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。

また、友の会会報「アワーミュージアム」No. 16～18を発行し、会員に送付した。

③企画展・特別陳列説明会

企画展「貝化石が語る海の記憶」、「古代のわざ」、及び特別陳列「丹波マンガン鉱山の記憶－在日コリアンの労働史」の開催期間中に、会員を対象とした説明会を行った。

④野外活動等

会員を対象とした行事を10回実施した。

○こどもの日フェスティバル（博物館と共催）

文化の森全体を使ってウォークラリーを実施した。近代美術館や文書館の協力も得て10のチェックポイントをめぐる。参加した小学生以下の子どもたちには記念品を進呈した。

日 時：5月5日（日）9：30～16：00

場 所：文化の森総合公園及び各施設

参加者：1195人

○気になる木を探そう

日 時：5月15日（日）13：00～16：00

場 所：博物館 実習室

参加者：4人

○第7回 園瀬川探検

日 時：6月16日（日）9：00～15：00

場 所：佐那河内村根郷から嵯峨まで

参加者：17人

○秋の研修会 「小豆島」

日 時：9月8日（日）7：00～19：00

場 所：香川県小豆島

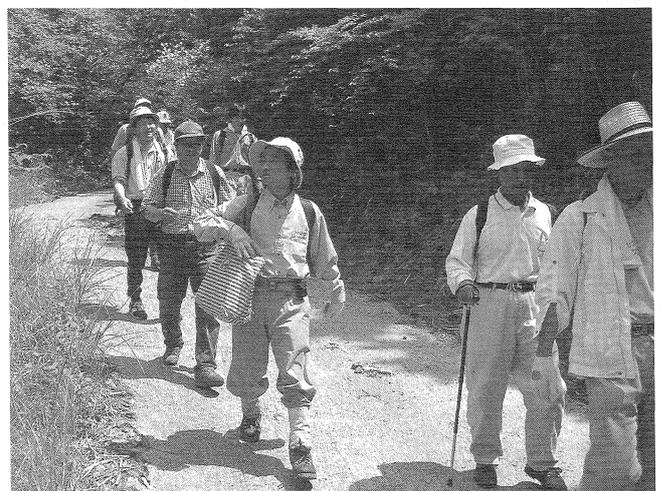
参加者：42人

○第8回 園瀬川探検

日 時：10月27日（日）9：00～15：00

場 所：佐那河内村根郷から宮前まで

参加者：9人



園瀬川探検

- 冬の研修会 「吉備路」  
日 時：11月30日(土)～12月1日(日)  
場 所：岡山県高梁市他  
参加者：28人
- 古美術品の調べ方  
日 時：2月23日(日) 13:00～15:00  
場 所：博物館講座室  
参加者：11人
- 七輪で鍛冶屋さん  
日 時：3月16日(日) 13:00～15:00  
場 所：博物館 実習室・屋外  
雨天のため中止
- 第9回 園瀬川探検  
日 時：3月30日(日) 9:00～15:00  
場 所：佐那河内村宮前から府能まで  
参加者：15人

## 7. 普及教育関係出版物

### ■博物館見学ノート

2001年11月3日第3版発行、B5判56ページ  
小・中学校の児童・生徒が博物館の展示を利用するにあたり、その教育効果を高めるのに役立つように作成されたワークシート形式のテキスト。1992年3月31日に初版発行して、今回第3版を1,000部印刷した。  
利用方法は多様であるが、主に遠足等で来館しワークシートでの学習を行う学校に配布している。

### ■博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンス Q&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で6,000部を印刷している。

平成14年度には次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

- No.47 (2002年6月15日発行)  
Culture Club 春を知らせる年中行事ー徳島県の太々神楽ー  
新旧館長あいさつ  
企画展 海道をゆくー黒潮のはこんだものー  
館蔵品紹介 鶏蒔絵印籠  
友の会活動紹介 園瀬川探検
- No.48 (2002年9月13日発行)  
Culture Club 徳島藩の蒸気船ーセントロイス号など購入の顛末ー

情報ボックス 「徳島県地学ガイド」  
企画展 古代のわざ  
野外博物館 海岸でクルミを拾う  
レファレンス Q&A 多樋式・深樋式銅剣は細形銅剣とどこがちがうのですか

- No.49 (2002年12月1日発行)  
Culture Club 絶滅から植物を救うために  
速報 今山の農村舞台(続報)  
特別陳列 楠コレクション  
野外博物館 以西用水の魚類  
レファレンス Q&A 「六十六部」とは何ですか?
- No.50 (2003年3月25日発行)  
Culture Club 生きものへの二つの接し方  
速報 太布織り技術の伝承と創造への試み  
企画展 歴史を決めた戦いー信長の台頭から家康の覇権までー  
館蔵品紹介 パラプゾシアー世界最大のアンモナイトー  
レファレンス Q&A ハチは危険な昆虫ですか?

### ■その他

#### ●博物館催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したB4判4つ折のリーフレット。14万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

#### ●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したB4のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

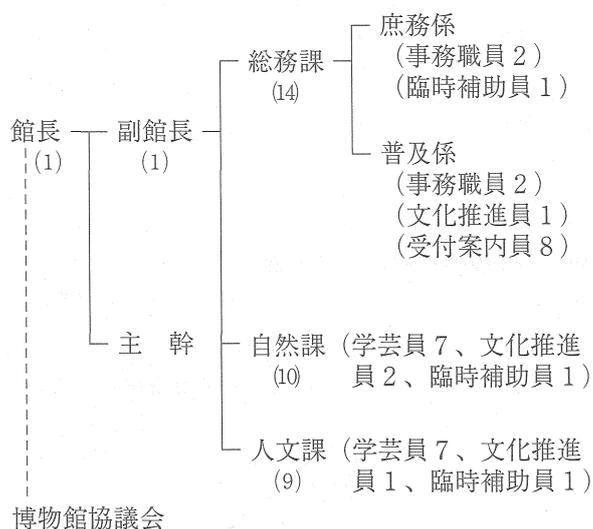
#### ●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した印刷物。年度初めに県内各学校に送付している。

# V 管 理 運 営

## 1. 組織・職員

### (1) 組織図 (平成15年4月1日現在)



### (2) 職員名簿 (平成15年4月1日現在)

- 館 長 両角 芳郎  
 副 館 長 本村 忠昭  
 主 幹 (総務課長兼務) 齐藤 修一
- 〈総務課〉  
 総 務 課 長 (庶務係長兼務) 齐藤 修一  
 主 事 亀井 美穂  
 普 及 係 長 上野 秋利  
 主 事 古東 謙司  
 文化推進員 新居 京  
 臨時補助員 武内 実香  
 受付案内員 行譜ゆかり  
 ♪ 小川まどか  
 ♪ 高本 順子  
 ♪ 岩本 和恵  
 ♪ 横田 奈々  
 ♪ 浅石 由美  
 ♪ 鈴木 真弓  
 ♪ 大西恵理子
- 〈自然課〉  
 自然課長 大原 賢二 (動物)

- 専門学芸員 佐藤 陽一 (動物)  
 主任学芸員 小川 誠 (植物)  
 ♪ 田邊 力 (動物)  
 ♪ 中尾 賢一 (地学)  
 学 芸 員 茨木 靖 (植物)  
 ♪ 辻野 泰之 (地学)  
 文化推進員 柳本 和美  
 ♪ 友成 陽子  
 臨時補助員 吉田 恵美
- 〈人文課〉  
 人文課長 山川 浩實 (歴史)  
 専門学芸員 高島 芳弘 (考古)  
 主任学芸員 大橋 俊雄 (美術工芸)  
 ♪ 長谷川賢二 (歴史)  
 ♪ 魚島 純一 (考古・保存科学)  
 ♪ 庄武 憲子 (民俗)  
 学 芸 員 磯本 宏紀 (民俗)  
 文化推進員 松本 絵梨  
 臨時補助員 秋枝真由美

### (3) 人事異動 (平成15年4月1日付、カッコ内は前職)

- 退職：米益 麻夫 (平成15. 3. 31退職)  
 転出：坂本 和裕 富岡小へ  
 転入：齐藤 修一 (港湾開発課主幹兼課長補佐)  
 古東 謙司 (小松島中教諭)  
 昇格：佐藤 陽一・専門学芸員 (主任学芸員)  
 庄武 憲子・主任学芸員 (学芸員)  
 新採：辻野 泰之・学芸員

### (4) 平成14年度非常勤・臨時職員

- 文化推進員 (非常勤特別職)  
 鳥 さなえ (平成12. 4. 1~15. 3. 31)  
 坪内 千恵 (平成13. 1. 1~15. 3. 31)  
 騎馬 貴子 (平成14. 1. 9~15. 3. 31)  
 松本 絵梨 (平成14. 4. 1~ )
- 臨時補助員  
 北川 美紀 (平成14. 4. 1~15. 3. 31)  
 柳本 和美 (平成14. 4. 1~15. 3. 31)  
 赤澤佐知子 (平成14. 4. 1~15. 3. 31)
- 受付案内員 (非常勤特別職)  
 佐々木道子 (平成12. 2. 1~15. 1. 31)

## ●平成14年度博物館費（2月現計予算額）

（単位：千円）

科目	予算額計	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育
報酬	27,035	27,035				
賃金	7,196	7,196				
報償費	1,555		625	370	320	240
旅費	8,451	991	2,331	4,109	840	180
需用費	33,206	3,753	19,626	3,860	4,174	1,793
役務費	12,522	1,862	7,074	639	2,182	765
委託料	12,052		4,086		7,966	
借損	1,158	408	510	90		150
備品費	39,819	2,388	1,998	1,549	*33,884	
負担金	146	81		65		
計	143,140	43,714	36,250	10,682	49,366	3,128

註) \*のうちには、資料購入費28,434千円を含む。

山崎 光（平成12. 4. 19～15. 3. 31）  
 加藤 陽子（平成13. 4. 1～15. 3. 31）  
 荒井 美奈（平成13. 4. 1～15. 3. 31）  
 立川 百香（平成14. 2. 15～15. 3. 31）  
 行譜ゆかり（平成13. 5. 9～ ）  
 小川まどか（平成13. 9. 1～ ）  
 高本 順子（平成14. 2. 1～ ）  
 岩本 和恵（平成15. 2. 11～ ）

## 2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を上表に示す。

## 3. 博物館協議会

徳島県立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

14年度は協議会を1回開催した。

## ●14年度博物館協議会

日時：平成14年7月31日（水）13：30～16：00

会場：博物館講座室

- 議事
- 1 平成13年度決算及び事業報告について
  - 2 平成14年度予算及び事業計画について
  - 3 「博物館と学校との連携」について
  - 4 その他

## ●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成15年3月31日現在）

区分	氏名	役職等
学校教育	竹内 文啓	県小学校教育研究会理科部会長 津乃峰小学校校長
	庄野 宏文	県中学校教育研究会社会科部会長 鳴門第一中学校校長
	小笠 泰史	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 城南高等学校教頭
社会教育	吉田 弘	徳島市立徳島城博物館副館長
	岡本 照彦	日和佐うみがめ博物館館長
	大石 雅章 （副会長）	鳴門教育大学教授
学識経験	中村 昌宏 （会長）	徳島文理大学教授
	佐野 英子	徳島新聞社事業局事業部副部長
	友滝 洋子	徳島県女性海外派遣交流会顧問
	田中 育代	車いすテニスサークル「フィフティール」車椅子の選手

## 4. 各種委員・非常勤講師等の受諾

平成14年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、大学非常勤講師等は次のとおり。

両角芳郎

愛媛大学農学部非常勤講師

（平成14. 4. 12～15. 3. 31）

日本博物館協会評議員  
(平成14. 6.18~16. 3.31)

本村忠昭  
徳島市立徳島城博物館協議会委員  
(平成14. 6. 1~15. 3.31)

佐藤陽一  
とくしま川づくり委員会委員  
(平成13.12.15~15.12.14)

徳島県田園環境検討委員会委員  
(平成13.12月~15.12月)

国土交通省河川・溪流環境アドバイザー  
(平成14. 5月~15. 3.31)

徳島県ビオトープアドバイザー  
(平成14. 6.10~15. 3.31)

環境省希少野生動植物種保存推進員  
(平成13. 7. 1~15. 6.30)

田辺 力  
環境省希少野生動植物種保存推進員  
(平成13. 7. 1~15. 6.30)

小川 誠  
環境基本計画策定庁内ワーキンググループ委員  
(平成13. 6. 1~15. 3.31)

環境省絶滅危惧植物専門第一委員会委員  
(平成13. 7. ~15.12.31)

徳島県田園環境検討委員会委員  
(平成13.12月~15.12月)

徳島県ビオトープアドバイザー  
(平成14. 6.10~15. 3.31)

環境省希少野生動植物種保存推進員  
(平成13. 7. 1~15. 6.30)

山川浩實  
徳島市立考古資料館協議会委員  
(平成14. 7. 1~15. 6.30)

高島芳弘  
徳島大学総合科学部非常勤講師  
(平成14. 4. 1~15. 3.31)

徳島市立考古資料館資料展示検討委員会委員  
(平成14. 6. 1~15. 5.31)

長谷川賢二  
徳島県歴史の道整備活用総合計画策定委員  
(平成13. 9.21~16. 3.31)

岡山大学文学部非常勤講師  
(平成14. 4. 1~15. 3.31)

徳島県同和問題啓発をすすめる会専門委員  
(平成14. 4. 1~15. 3.31)

人権資料収集検討委員会委員  
(平成14. 6.28~ )

庄武憲子  
神山町史編集委員会執筆委員  
(平成10. 7. 1~15. 3.31)

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館資料館協議会委員  
(平成14. 4. 1~15. 3.31)

## 5. コンピュータシステム

平成11年度にCOMET(徳島県文化・学習情報システム)のコンピュータシステム更改が行われ、一般への情報提供システム及び業務システムに係わる部分に変更された。特に情報提供システムはインターネットベースに変更された。

### (1) システム構成

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。

業務用システムでは、研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネットをつなぎ、2台のファイルサーバを中心としたMacintoshによるLANを構築している。職員1人につき1台のパソコンが支給されている。業務用サーバのデータは、21世紀館に常駐するSEによって毎日バックアップがとられている。

情報提供用システムでは、館内ではLANにより、館外へはインターネットによる情報提供を行っている。従来のCOMETによる資料データベースの提供は、Microsoft Windows NT Serverによって運用され、21世紀館がシステムの管理を行っている。博物館の催し物や各種ニュースなどは、Macintoshを使ったWWWサーバで博物館のホームページとして公開され、このサーバに関しては博物館が管理を行っている。

### (2) システムの活用

#### ●資料管理

博物館では収蔵資料をデータベースに登録している。資料データベース作成は、各分野ごとに担当学芸員が様々な目的に応じた柔軟なデータの加工ができるよう、市販ソフトであるファイルメーカーProを用いて行っている。

データベースを使って、資料ラベルや資料目録の作成、資料受入れ・貸出し管理、各種調査や問い合わせのデータ作成、情報提供用データの作成等の作業を行っている。

### ●各種データベースの構築

資料管理以外にも次のような各種のデータベースを構築し、共有している。

- ・図書データベース
- ・画像データベース
- ・文献データベース
- ・発送先住所データベース

### ●普及活動及び広報活動への活用

各種の広報用印刷物はパソコンを使って編集し、データを印刷業者に渡したり、レーザープリンタで出力したものを原稿として用いている。12年度も、催し物データベースを構築し、それを利用して催し物案内文の作成、行事記録の作成を行うようにした。さらにデータベースと電子メールソフトを連携して、電子メールでの催し物案内サービスを行っている（13年3月末現在の登録者約299名）。

### ●COMET を通じての情報提供

文化の森では、COMET を通じて来館者や各家庭にさまざまな情報提供を行っている。博物館でも収蔵資料データベースや図書データベースを公開しており、情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

### ●ホームページによる情報提供

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。平成11年の7月から、次期 COMET システムの実験という性格も兼ねて、新ホームページの運用を始めた。ホームページの主な項目は下記のとおりである。

- ・博物館の紹介（開館日・交通案内など）
- ・展示案内（企画展、常設展）
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動（データベース）
- ・学校等への利用案内
- ・出版物（展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内）
- ・友の会、博物館協議会
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー（子供向けメニュー、映像コーナーなど）

### ●インターネットの活用

電子メールやホームページを職員が利用できるようになり、各種問い合わせや連絡、情報の収集に活用している。メーリングリストを利用し、博物館や研究者間の情報交換もさかんに行われている。

### ●展示活動への活用

企画展の展示パネルの多くやラベルは、パソコンで作成し、レーザープリンタやカラープリンタで印刷したものを使うようになった。

### ●博物館業務管理への活用

日常の博物館業務管理にもシステムを活用しており、定型作業や集計作業の効率化を図っている。

## 6. 博物館ネットワーク

### (1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在89館（園）が加盟している。四国地区の会長（支部長）を担当する館が2年ずつ持ち回りで幹事館をつとめることになっている。

平成14年度の役員会及び総会は次のとおり高松市で開催された。

#### ●14年度役員会・総会

日時：5月14日（火） 10：30～16：30

会場：香川県歴史博物館

議事：平成13年度事業報告及び決算報告について  
新規加盟施設の紹介及び会費決定について  
平成14年度事業計画案及び予算案について

講演

演題：完全学校週5日制の実施と博物館の果たす役割

講師：藤田 彰一氏（香川県歴史博物館専門職員）

#### ●研修視察 5月15日（水） 9：00～12：00

視察先：四国民家博物館、香川県歴史博物館

### (2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、9年度11館、11年度に2館、12年度に3館、13年度に3館が加盟した。13年度末には1館が退会14年度末には2館が退会したが、14年度当初に新たに3館加盟したため、全部で50館（平成15年3月末現在）になっている。なお、当館に事務局が置かれている。

#### ●役員（平成15年3月末現在）

会長 徳島県立博物館長

両角 芳郎

副会長 大塚国際美術館理事

田中 秋篠

副会長 とくしま動物園長

本田 武

理事	相生森林美術館長	滝本 憲之
理事	徳島市立徳島城博物館副館長	吉田 弘
理事	徳島県立近代美術館長	小川統史郎
理事	石の博物館長	岩崎 正夫
理事	松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館長	笹田 博之
監事	海南町立博物館長	岡田 一郎
監事	鳴門市ドイツ館長	田村 一郎

#### ●14年度新規加盟館（3館）

徳島県立文学書道館、徳島市天狗久資料館、鳴門市賀川豊彦記念館

#### ●14年度事業

- ①加盟館園の組織・職員と展示概要、主な収蔵資料リストを作成した。
- ②徳島県博物館協議会ニュースを2回発行した。
- ③役員会の開催
  - ・日時：6月4日(火) 13:00～14:00
  - 場所：徳島県立博物館応接室
  - 議事：総会について
  - ・日時：1月30日(木) 13:30～15:30
  - 場所：徳島県立博物館応接室
  - 議事：各実施事業についての経過報告、スタンプラリー、会費の変更について
- ④総会の開催
  - 日時：6月4日(水) 14:30～16:30
  - 場所：徳島県立博物館講座室
  - 議事：13年度事業報告並びに決算報告について  
監査報告について  
14年度役員について  
14年度事業計画並びに予算案について  
その他―スタンプラリーについて
  - 講演：講師 小川 裕久氏(徳島市立徳島城博物館)  
演題 「徳島城博物館の展示公開事業」
- ⑤徳島博物館マップの配布
 

今年度新しく作成した「徳島博物館マップ」を各加盟館で配布するとともに、県内の観光施設、宿泊施設、交通機関等に配布を依頼した。
- ⑥巡回展の開催
 

人権教育のための国連10年協賛「丹波マンガン鉱山の記録―在日コリアンの労働史―」を、次のとおり開催した。

徳島県立博物館（6月25日～7月7日）  
観覧者数 1,195人

海南町立博物館（7月11日～22日）  
観覧者数 249人

石の博物館（7月31日～8月15日）  
観覧者数 3,626人

土成町郷土歴史館（8月20日～9月4日）

観覧者数 115人

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館（9月8日～9月25日）

観覧者数 835人

- ⑦共同事業検討会の開催 参加者24名  
日時：10月16日(水) 14:00～16:00  
場所：徳島県立博物館講座室  
内容：とくしまミュージアムスタンプラリーの今後の取り扱いについて
- ⑧先進地の博物館施設の調査 参加者17名  
日時：11月27日(金) 9:00～18:00  
高知県立歴史民俗資料館・アンパンマンミュージアムの施設調査を実施。両館とも担当者から詳細に館運営の状況を聞き取ることができた。
- ⑨研修会の開催 参加者27名  
日時：2月21日(金) 13:00～16:30  
場所：那賀川町科学センター  
内容：博物館と学校教育の連携について実践報告  
・那賀川町科学センター  
・那賀川町歴史民俗資料館  
・相生森林美術館  
講演「施設概要と事業運営」  
天体望遠鏡などの施設見学

### (3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により平成8年に結成された。現在、29機関・団体が加入しており、事務局は大阪人権博物館、水平社博物館、福山市人権平和資料館、福岡県人権啓発情報センター、柳原銀行記念資料館で組織されている。

当館は発足時から加入しており、毎年1回開催される総会に職員を派遣しているほか、加入機関との個別的な協力も行っている。

14年度総会は、7月7～8日、徳島簡易保険保養センター（かんぼの宿とくしま）及び当館を会場として行われた。22機関・団体から45名の参加があった。新代表に守安敏司水平社博物館長を選出し、15年度総会を鳥取市で開催することなどが決定されたほか、当館の視察を行った。

## 7. 視察等博物館関係来訪者

4月26日	愛媛県総合科学博物館学芸員	山根勝枝氏
6月1日	海部郡小学校理科部会	15名
8月23日	山形大学人文学部教授	松尾剛次氏
8月24日	文部科学審議官	御手洗康氏
9月4日	山梨県教育委員会一行	9名
9月11日	奈良県教育委員会一行	8名
10月24日	国立民族学博物館博物館学国際協力セミナー一行	12名
10月25日	名西郡理科部会	10名
11月18日	愛知教育大学教授	川村善也氏
11月27日	京都府隣保館連絡協議会中部地域連絡協議会一行	12名
12月19日	沖縄県文化環境部文化振興課	仲本興哲氏 他2名
1月16日	三重県教育委員会一行	4名
2月1日	楠 弘美氏他	6名
2月20日	文化・観光施設研修	15名
2月27日	京都国立博物館総務課	吉田良博氏他2名
3月6日	国立歴史民俗博物館資料課	今井千恵子氏他 2名
3月19日	ラプラタ大学国際関係研究所日本研究センター長	小那覇セシリア氏

# VI 観覧者統計

平成14年度から小・中・高校生の観覧は、土曜、日曜、祝日および長期休業中については、常設展、企画展とも無料になったため、これまでとは異なる入館者のカウント方式となった。無料の観覧者数が増えているのはそのためであるが、累計表においてはすべての区分での入館者数を表示するのは困難であるため、これまでの方式に合わせて表示したものもある。

## ●平成14年度 博物館常設展観覧者数

(単位：人)

開館 日 数	有 料 観 覧 者												無 料 観 覧 者												観 覧 者 総 数				
	個 人			団体 (割引20%)			減免 (割引50%)						有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育						個 人			無 料 観 覧 者 計						
	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	大 人			高校・ 大学生	小・中 学 生	園 数		人数	校 数	人数	校 数	人数	校 数	人数	計 校 数	人数		小学生		中学生	高校生	その他	
							高齢者	障害者	計																				
4月	25	791	26	22	11	0	0	98	3	101	0	0	951	0	0	0	2	233	2	402	4	635	1,074	107	84	785	2,685	3,636	
5月	27	533	28	17	27	0	1	61	56	117	1	0	724	4	99	16	1,556	3	643	2	209	25	2,507	1,562	164	123	2,372	6,728	7,452
6月	26	659	15	8	32	62	0	59	7	66	0	0	842	1	117	1	106	1	6	0	0	3	229	801	74	41	422	1,567	2,409
7月	26	631	23	17	42	0	0	83	29	112	0	0	825	1	17	1	25	0	0	0	0	2	42	741	105	40	606	1,534	2,359
8月	28	1,523	67	0	24	3	0	146	9	155	0	0	1,772	1	44	0	0	1	49	0	0	2	93	1,563	222	106	930	2,914	4,686
9月	25	661	44	2	16	0	0	100	13	113	0	0	836	0	0	1	114	0	0	0	0	1	114	941	77	63	1,197	2,392	3,228
10月	27	601	29	12	16	1	0	95	23	118	0	0	777	2	162	13	997	0	0	0	15	1,159	692	64	73	772	2,760	3,537	
11月	26	396	30	31	158	0	88	76	4	80	0	0	783	3	122	10	584	0	0	0	13	706	500	49	52	960	2,267	3,050	
12月	23	311	8	3	6	2	0	27	8	35	0	0	365	2	26	0	0	1	75	1	5	4	106	289	36	27	295	753	1,118
1月	23	399	28	3	24	0	0	163	1	164	0	0	618	1	181	0	0	0	0	0	0	1	181	369	41	31	439	1,061	1,679
2月	24	460	25	9	19	0	0	125	9	134	0	0	647	3	61	0	0	0	0	1	14	4	75	462	35	43	497	1,112	1,759
3月	26	696	49	6	6	0	0	93	44	137	0	0	894	7	329	0	0	0	0	0	0	7	329	629	50	43	491	1,542	2,436
計	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	9,623	1,024	726	9,766	27,315	37,349

## ●常設展観覧者数累計 (平成2年度～平成14年度)

(単位：人)

年 度	開 館 日 数	有 料 観 覧 者												無 料 観 覧 者												観 覧 者 総 数		
		個 人			団体 (割引20%)			減免 (割引50%)						有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育						そ の 他	無 料 観 覧 者 計						
		一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	大 人			高校・ 大学生	小・中 学 生	園 数		人数	校 数	人数	校 数	人数	校 数			人数	計 校 数	人数		休 業 期 間	土 日 ・ 祝
								高齢者	障害者	計																		
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722			55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277	
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282			202	26,165	44	6,960	21	2,443	287	35,568		2,267	37,835	137,117	
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861			114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133	
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480	
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147	
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373	
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121	
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720	
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	14,209	22,301	38,891	
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	13,846	23,018	37,888	
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	13,744	23,280	38,132	
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	83	5,541	2,275	12,017	19,833	32,038	
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	9,766	27,315	37,349	
計	3,760	274,082	22,092	98,811	26,028	1,764	4,963	41,065	3,614	44,679	161	203	472,783	243	12,682	1,111	102,774	229	33,359	110	14,211	1,678	163,026	27,325	114,532	304,883	777,666	

●平成14年度 博物館企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者										無料観覧者										観覧者総数							
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)				有料観覧者計	学校教育					個人					無料観覧者計						
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般			高校・大学生		小・中学生	幼稚園	小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生			その他					
									高齢者	障害者	計																			
第1回企画展 貝化石が語る海の記憶	H.14.4.12 H.14.5.12	27	2,125	47	32	0	0	0	300	11	311	0	0	2,515	0	0	3	101	3	625	2	402	8	1,128	1,663	156	84	771	3,802	6,317
第2回企画展 海道をゆく	H.14.7.20 H.14.9.1	39	1,108	51	0	6	0	0	210	11	221	0	0	1,386	1	44	0	0	1	49	0	0	2	93	871	131	55	658	1,808	3,194
第3回企画展 古代のわざ	H.14.10.11 H.14.11.10	27	1,148	37	4	28	0	0	347	14	361	0	0	1,578	0	0	13	1,087	0	0	0	0	0	0	461	70	60	468	2,146	3,724
合計		93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	1	44	16	1,188	4	674	2	402	10	2,308	2,995	357	199	1,897	7,756	13,235

●企画展観覧者数累計(平成3～14年度)

(単位：人)

年度	開催日数	有料観覧者											有料観覧者計	無料観覧者計	観覧者総数
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)							
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般			高校・大学生	小・中学生			
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成9年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	3,476	16,041
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	24,581	33,415
平成13年度	90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	2,070	12,159
平成14年度	93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	7,756	13,235
合計	1,243	94,025	7,463	32,545	1,912	290	6,922	15,156	706	15,862	61	51	159,131	75,565	234,696

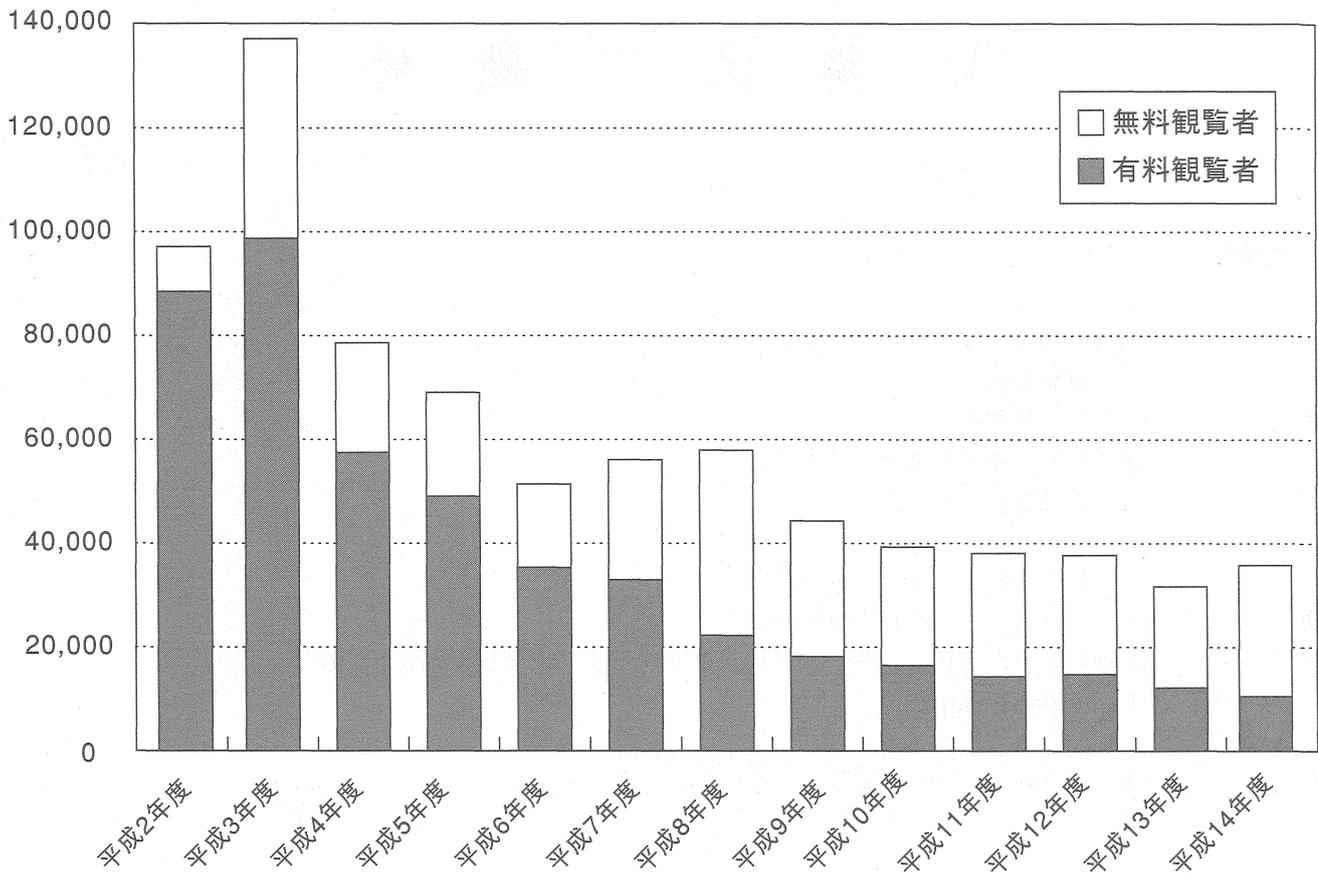
●特別陳列観覧者数累計(平成4～14年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
丹波マンガ山鉾の記録 -在日コリアンの労働史-	平14.6.25～7.7	12	1,195
2002年度同和問題啓発展	平14.7.27～8.4	8	1,066
〃 第2回	平14.12.3～12.8	6	669
楠コレクションの 美術・歴史資料	平15.1.21～3.2	36	4,655
累計		276	60,435

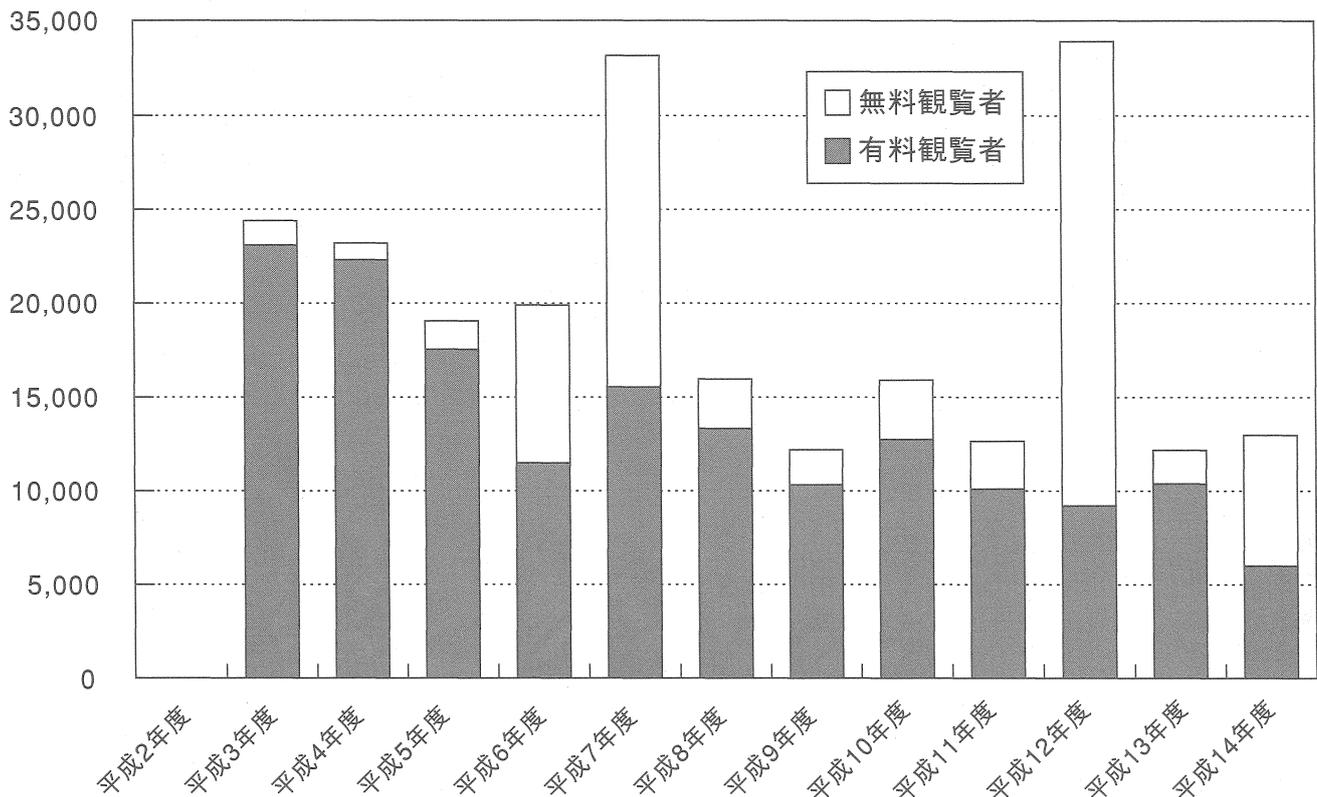
●移動展観覧者数(平成14年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
2002年度移動展-昆虫 の世界(海南町立博物館)	平14.10.26～11.24	26	1,137

●常設展観覧者数（平成2～14年度）



●企画展観覧者数（平成2～14年度）



## Ⅶ 施設の概要

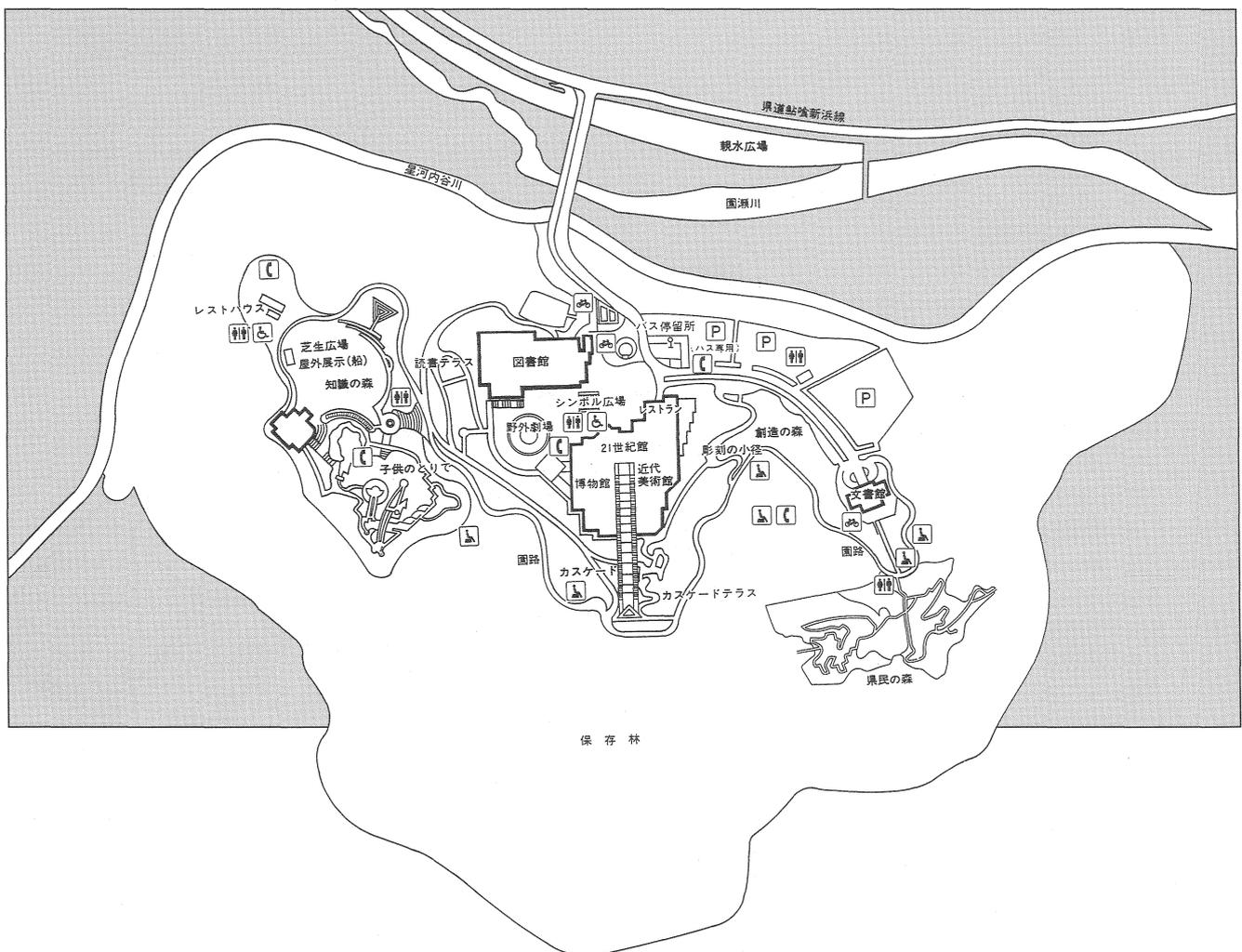
### 1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年7月	博物館展示工事着手
平成元年4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成2年3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成3年2月	博物館資料収集委員会設置
平成4年3月	博物館が、日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く文教施設として指定される
平成8年4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施

### 2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 建築面積 8,363㎡（3館棟）
- 延床面積 22,382㎡（3館合計－積層部分を含めると23,814㎡）  
8,133㎡（博物館占用スペース）

- 構造規模 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階
- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施行
  - 建築 ————— 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
  - 電気 ————— 四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
  - 空調 ————— 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
  - 管 ————— 朝日工業社・大成設備 共同企業体
  - エレベータ ————— (株)東芝
  - 家具 ————— 富士ファニチア(株)
  - 移動展示ケース ——— (株)三井
  - 展示 ————— (株)丹青社



### 3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
保存処理室 1	70
その他共用部分※	771
小計	2,043

2 階	
室名	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>
総合展示室	1,252
ラブラク記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

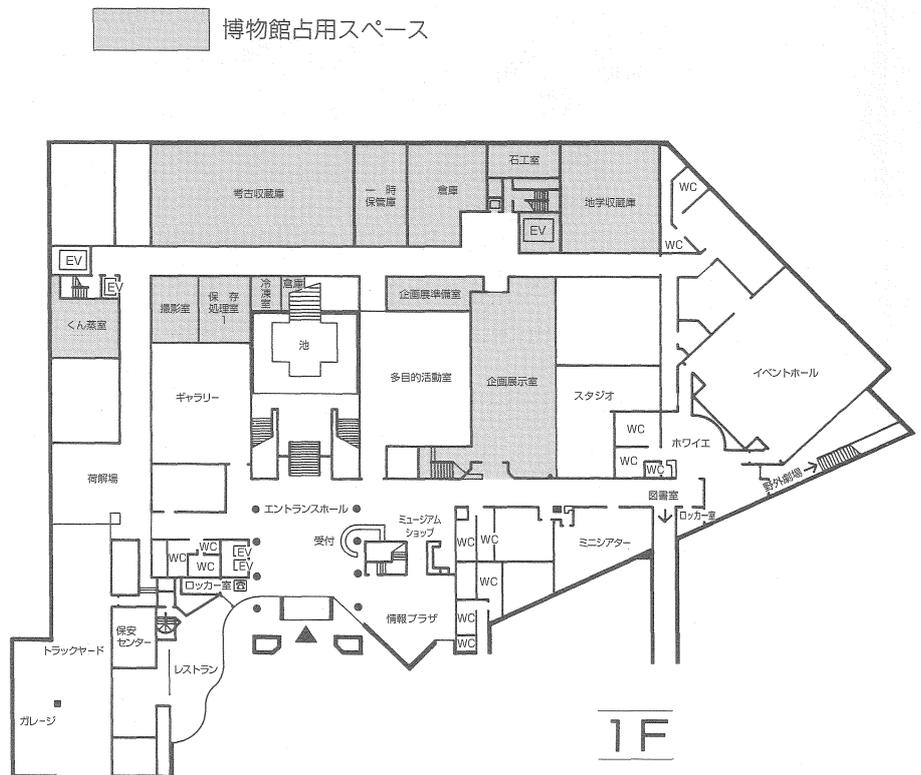
4 階	
室名	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>
エレベーターホール	45
特別収蔵庫 1	37
特別収蔵庫 2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

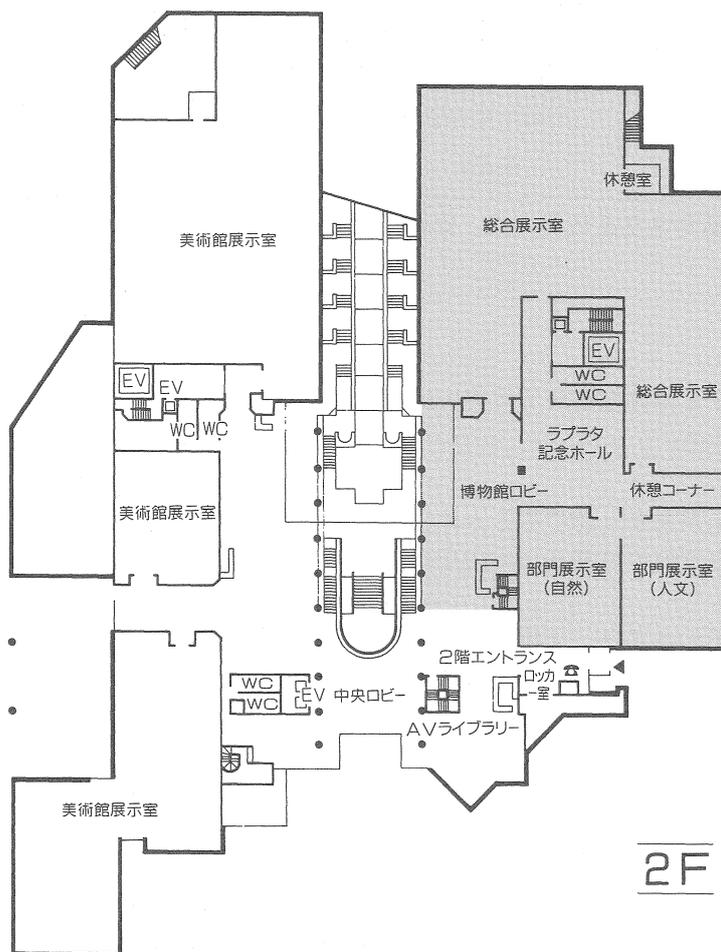
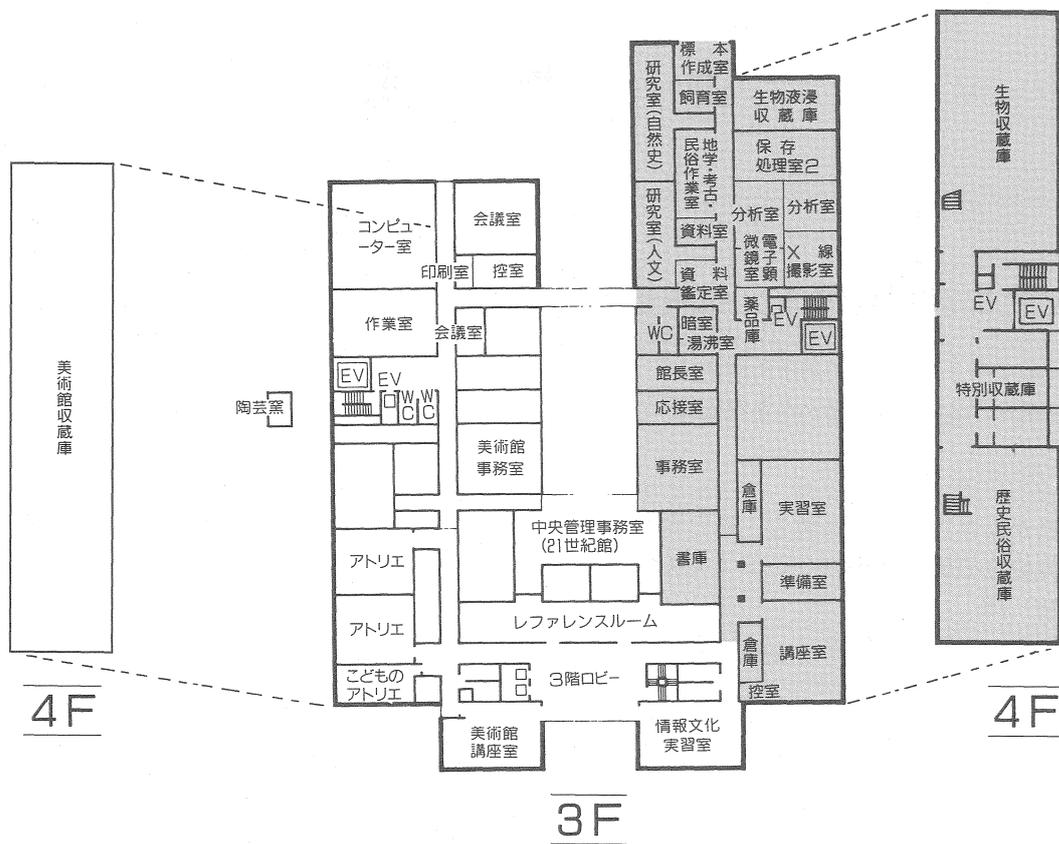
3 階	
室名	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室 1	64
分析室 2	48
X線撮影室	48
保存処理室 2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

屋 1 階	
室名	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>
その他共用部分※	39
小計	39

合 計	
8,133 <sup>m<sup>2</sup></sup>	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。





則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

## ●徳島県立博物館協議会規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第6項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

## ●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成15年3月31日 徳島県教育委員会規則第2号

第1章 総 則 (省略)

第2章 事務局 (省略)

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に総務課、自然課及び人文課を置き、総務課に庶務係及び普及係を置く。

2 前項の課及び係の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

第6節 職及び職務 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

(所長等の職務)

第32条 教育センター、情報処理教育センター、少年自然の家及び埋文総合センターの所長、文書館、21世紀館及び中央武道館の館長並びに県民運動場の場長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(次長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、21世紀館

(教育センターその他の次長は省略)

2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、当該機関に属する次長又は副館長が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主 幹	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し特に命ぜられた事項を処理する。
課 長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
係 長	上司の命を受け、係の事務を処理する。
事 務 主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

## 第4章 附属機関

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の各協議会等は省略)

## ●徳島県立博物館観覧料減免要綱

制 定 平成2年11月3日

最近改正 平成14年4月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。)

第4条第3項の規定に基づき、徳島県立博物館の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の減免)

第2条 観覧料を減免することができるとき及びその減免の割合は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者並びにこれらの引率者が、教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (2) 身体障害者手帳の交付を受けている者及び第一種身体障害者(昭和57年1月6日付け社更第4号厚生省社会局長・児童家庭局長通知に定めるところによる。)の介護者(1名に限る。)、療育手帳の交付を受けている者及びその介護者(1名に限る。)並びに精神障害者保険福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者(1名に限る。)が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (3) 年齢満65歳以上の者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (4) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する祝日及び休日(1月1日を除く。以下「祝日」という。)に観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (5) 祝日に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。企画展観覧料の全額
- (6) 土曜日(祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (7) 日曜日(祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (8) 各学校の学則等に規定する学年始休業日、夏季休業日、冬季休業日及び学年末休業日(土曜日、日曜日及び祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (9) その他徳島県立博物館長(以下「館長」という。)が特に必要と認めるとき。館長が必要と認める額(観覧料の免除申請等)

第3条 前条第1号により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館観覧料免除申請書(様式第1号)を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の申請を適当と認めるときは、観覧料の免除を承認するものとする。

3 前条第2号又は第3号に該当する者は、身体障害者手帳、療育手帳並びに精神障害者保険福祉手帳又は年齢を証明する資料を提示し、承認を受けるものとする。

様式第1号(省略)

## ●徳島県立博物館資料特別利用要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第6条の規定に基づき、徳島県立博物館が所蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の特別利用について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 資料の特別利用とは、学術その他の研究及び展示、又は出版物掲載等のため、資料を特別に閲覧、模写、複写、複製、撮影しようとする場合、あるいは資料の貸出を受けようとする場合をいう。

(手続)

第3条 資料の特別利用をしようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料特別利用申請書（様式第1号）を提出し、資料特別利用許可書（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 資料の特別利用のうち、資料の館外貸出を受けようとする者は、貸出を受けようとする日の30日前までに、特別利用申請書を提出するものとする。

3 館長は、資料の館外貸出をする際、借受者から資料借用書（様式第3号）を提出させるものとする。

(許可基準等)

第4条 資料の特別利用ができる場合は、学術その他の研究及び教育又は文化に関する事業の用に供することを目的とするときに限るものとし、次の各号のいずれかに該当するときは許可しないものとする。

- (1) 特別利用によって、資料の保存に悪影響を及ぼす恐れがあるとき。
- (2) 特別利用によって、博物館の業務に支障をきたす恐れがあるとき。
- (3) 寄託資料の特別利用をしようとする場合で、寄託者の同意を得ていないとき。
- (4) その他、館長が不相当と認めるとき。

2 資料の館外貸出を受けることができる者は、次のとおりとする。ただし、貸出期間は原則として45日以内とする。

- (1) 国立の博物館、博物館法に定める博物館及び博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法に定める公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法に定める図書館
- (4) 学校教育法に定める学校
- (5) その他、館長が相当と認める者

(条件)

第5条 資料の特別利用を許可された者は、特別利用に際し次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 資料特別利用申請書に記載した目的以外に資料を利用しないこと。
- (2) 係員の指示に従って資料を取り扱うこと。
- (3) 資料の借受及び返納に当たっては、係員立ち会いのもとで、資料の確認、点検を行うこと。
- (4) 特別利用に伴って必要となる経費は、特別利用する者が負担すること。

(損害賠償)

第6条 資料の特別利用を受けた者が、資料を損傷又は亡失したときは、速やかに館長に届け出てその指示するところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

様式第1号～第3号（省略）

## ●徳島県立博物館資料寄託取扱要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第7条の規定に基づき、博物館資料（以下「資料」という。）の寄託に関する取扱について必要な事項を定めるものとする。

(手続)

第2条 徳島県立博物館に資料を寄託しようとする者（以下「寄託者」という。）は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料寄託申請書（様式第1号）を提出し、資料寄託許可証（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 館長は、資料の寄託を受けたときは、寄託者に資料受託書（様式第3号）を交付するものとする。

3 寄託者に寄託資料を返還するときは、資料受託書と引き替えに行うものとする。

(許可基準)

第3条 館長は、資料の寄託の申請があったときは、次の各号のいずれかに該当する資料について受け入れるものとする。

(1) 国指定文化財及び県・市町村指定文化財に指定されている資料、若しくはそれに準ずる資料

(2) 博物館資料として展示等に活用できる資料

(3) 博物館資料として保存すべき価値が高く、かつ現状のままでは資料の保存が危惧される資料

(4) その他、館長が特に必要と認める資料

(寄託期間等)

第4条 資料の寄託期間は、5年とする。

2 寄託者が、寄託期間満了後において引き続き資料を寄託しようとする場合は、改めて第2条による手続を行わなければならない。

3 寄託者が、寄託期間満了以前に寄託資料の返還を求めるときは、返還を希望する日の30日前までに館長に申し出なければならない。

4 寄託者は、寄託期間内に寄託資料の所有権に変更があったときは、速やかに館長に申し出なければならない。

5 館長は、前項の申し出を受けたときは、新たに所有権を有することになった者と協議し、引き続き資料の寄託を希望する場合は、改めて第2条による手続を行うものとする。

(寄託資料の特別利用)

第5条 徳島県立博物館又は第三者が、徳島県立博物館資料特別利用要綱に基づく寄託資料の特別利用をしようとするときは、あらかじめ寄託者の承諾を得なければならない。

2 第三者が寄託資料を特別利用しようとするときは、寄託者の承諾を得た後、資料特別利用要綱に基づく手続を行い、館長の許可を得るものとする。

(経費等)

第6条 寄託資料の運搬等に要する費用については、寄託者が負担するものとする。

2 寄託資料の保管料については徴収しない。

3 寄託資料に補修等の必要が生じたときは、館長と寄託者と協議して行うものとする。

(管理)

第7条 寄託資料の管理は、徳島県立博物館が所蔵する資料に準じて行うものとする。

様式第1号～第3号（省略）



徳島県立博物館年報 第12号 (平成14年度)

---

平成15年(2003)6月30日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

(文化の森総合公園内)

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

Eメール [museum@staff.comet.go.jp](mailto:museum@staff.comet.go.jp)

ホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/>

印 刷：(株)教育出版センター

---